

三省堂 高校英語教育

2011年 夏号

巻頭エッセイ

アラスカへの思い 星野直子 …… 1

特集

語彙力増強の指導法

- 多角的なアプローチによる語彙指導 飯野 厚 …… 2
- 語彙力をつける指導法—授業の中で語彙を定着させていくための小さな提案 日臺滋之 …… 6
- 教科書を使い倒す語彙指導 執行正治 …… 10
- 語彙指導 —理論と実践— 江口秀喜 …… 14
- 教科書中心の指導実践 残間紀美子 …… 18
- 予備校・英語塾から見た語彙習得の課題 中山 航 …… 22

英文エッセイ Todd Jay Leonard …… 26

2011年度センター試験の分析と対応 渡辺 聡 …… 28

プリマス便り 石塚美佳 …… 表紙裏

表紙写真について 岩佐洋一 …… 表紙裏



先人たちを想う

東京工科大学 石塚美佳

マサチューセッツ州ボストンから南へ1時間ほど行った先にあるプリマス (Plymouth)。大都市ではないので、何かきっかけがないと行かないと思っていたが、幸運にも2度、生徒・学生を引率して訪れる機会を得た。

プリマスは、1620年にイギリスでの宗教的迫害を逃れて新天地を求めて祖国を出発した清教徒たち、ピルグリム・ファーザーズ (the Pilgrim Fathers) が、メイフラワー号に乗って約60日間の航海の末にたどり着いた場所である。小さな船に多くの老若男女が乗り込み、9月から11月にかけて狭い貨物船の中で過ごしたために、脚気にかかって命を落とす人も多かったと聞く。プリマス港には、そのメイフラワー号が復元されていて見学することができる。プリマスの港からそれほど遠くない海岸には、プリマスロックと呼ばれる岩が据えられていて、表面には「1620」と刻まれている。これは、ピルグリム・ファーザーズがその上陸の第一歩を印したとされる岩だ。実際の岩は大きいので、その上半分だけを移動し、現在ある場所に移してきたらしい。目の前に広がるプリマスの海を眺めつつ、ピルグリムたちが経験した航海や入植地での生活を想像してみるのもよい。

プリマスの見どころの1つには、プリマス・プランテーションがある (Plymoth Plantation 注: プリマスという土地の名前は Plymouth と綴るが、プランテーションの名前には Plymoth が使われている)。これは、ピルグリムたちがつくった入植村の1627年当時の様子を、初代知事ブラッドフォードの日記をもとに再現したものだ。当時の人々が住んでいた家や集会所、使われていた道具



当時の生活を再現する人

(農耕具、鍛冶道具、調理器具等) や食料品が再現されている。そして、当時の服を着て、当時のように生活をしている人々と出会うことができる。もちろんスタッフなのだが、古いイギリス英語を話し、そのなりきりの徹底ぶりは見事だ。質問する時も、当時のピルグリムたちを指し示す三人称 (they) ではなく、二人称 (you) を使って質問すると、辛い航海のこと、初めての作物収穫に失敗した経験、日常生活などについて語ってくれる。当時には存在しなかった語 (electricity や computer 等) を使うと、それは何かと聞き返されてしまうほどだ。

プランテーション内のピルグリムたちの村を離れてしばらく歩くと、先住民ワンプノアグ族 (Wampanoag) の暮しぶりを再現している場所がある。ワンプノアグ族はピルグリムたちに作物の育て方、収穫方法などを教えたとされている人々で、彼らの指導によって作物の収穫が成功し、ピルグリムたちはそれを神に感謝して祝うようになった。11月の感謝祭 (Thanksgiving) の始まりである。

プリマスを散策しながら、アメリカ建国当時の歴史に思いをはせる機会を得たのは、今思い出しても良い経験であった。



表紙写真
について

クスコの炊き出し

麻布中学高等学校 岩佐洋一

クスコは1983年に世界文化遺産に指定され、世界中から観光客を集めているペルーの観光都市だ。標高3400メートルのアンデス山中の盆地に位置し、太陽神を崇拜するインカ帝国の都として栄えた。往時には、太陽の象徴である黄金で彩られた神殿や宮殿がまばゆいばかりにそびえ立っていたが、インカ帝国を滅ぼしたスペイン人により金銀は手当たりしだい略奪されていったという。

この写真は、町を散歩していて、たまたま撮った1枚である。インカの都クスコの中心にスペイン人が建てたカトリック大聖堂前での炊き出し風景だ。インカの末裔であるインディオ系のペルー人家族が長蛇の列を作って順番を待っている。子供連れのお母さんが多いが、中には近隣の村からはるばる山を越えてやってくる人たちもいるという。足元は、素足に古タイヤから作ったサンダル履きという人が多いのがわかるだろう。

クスコでは日本人宿に泊まった。そこでは、高山病予防のココ茶を飲みながら様々な日本人旅行者と話をした。その中には、クスコに来る夜行バスが横転するというアクシデントに見舞われたカップルもいた。幸い彼らは軽傷ですんだが、重症の人もかなりいたという。バス会社とはこれ

から補償金など交渉すると語っていたが、どうなったことか。トランクに入っていた荷物を受け取りに行った席では「軽傷ですんでラッキーでしたね。はい、さようなら。」という雰囲気だったそうだ。かくいう私もペルーの首都リマで乗車したタクシーが追突事故を起こし、その場からそそくさと逃げるという経験をした。ペルーで車に乗る時は要注意のようだ。

さて、リマでも泊まりは日本人宿だった。宿の女主人は、あまり近づかないほうがいいエリアを親切に教えてくれ、ペルーの貧富の格差、それゆえの治安の悪さを語ってくれた。その中でも忘れられない言葉がある。

彼女がケーキ屋さんで買い物をしようとしていると、身なりはあまりきれいでないけれどかわいらしい女の子が本当にうらやましそうにケーキ棚に目を向けていた。貧しい人は見慣れている彼女だけれど、その時はその子に何か買ってあげたい気分になった。さぞ喜ぶだろうと思ってあげたケーキを女の子は食べようとしない。不思議に思い尋ねてみると、「家には兄弟がいるからこんなおいしいもの一人で食べたらもったいない。みんなで分けて食べようと思っているの。」とケーキを大事そうに抱え答えたという。

「貧しさは治安の悪さを招くこともあるけれど、人をやさしくすることもできるのよ。他人の痛みがよく理解できるようになるから。」という彼女の言葉は胸に刺さった。炊き出しに並ぶクスコの家族の姿が脳裏に浮かんだ。

アラスカへの思い

星野直子

夫、星野道夫の学生時代、北海道の自然に強く魅かれていた彼は、通学の電車で揺られている時、ふっと北海道のヒグマが頭をかすめたのでした。自分が東京で暮らしている同じ瞬間に、同じ日本のどこかの山で一頭のヒグマが倒木を乗り越えながら力強く大地を踏みしめている……。そのことが不思議でならなかったのです。

やがて北海道への憧れはアラスカへとつながっていきます。大学生の時に親友を亡くし、人の一生の短さを知り、自分の残された時間の中で、本当に好きなことをやっていこうと、アラスカで写真を撮る道を決めました。

アラスカに渡って写真を撮り始めた頃には、5年間位でアラスカをまとめ、その後は別のテーマで他の場所を撮影しようと考えていたようです。しかし5年が過ぎ振り返ってみると、自分はアラスカという大きなテーマのほんの入口に入ったばかりで、十分に撮影ができていないことに気がきました。カメラとザックを担ぎ、一年の半分近くをテントで過ごし、たくさんの風景・野生動物と会うことで、又、その旅の中で多くのアラスカに暮らす人々と出会い、親交を深める毎に、アラスカというテーマは、より深くなっていき、一生を賭けるものとなりました。



アラスカにて 2011年春

結婚後短い期間でしたが撮影に同行し、フィールドでの時間を共に過ごすことで、夫がいかにフィールドで過ごす時間を大切に楽しんでいたか、そして撮影するためにどれほど長い時間待つのかということに気付かされました。動物たちがありのままの自然な姿で撮られている写真の裏には、長い時間と、その対象に対する深い思いがあったのです。

又、夫は写真を撮りながら、自分が見ているこの風景を誰かに見せてあげたい、そんな思いも強く持っていました。「自分の撮影した写真を見た人や、書いた文章を読んでくれた人を、一人でも励ますことができればいいな」と話してもいました。

夫には若い人へ伝えたい二つのメッセージがありました。一つはなるべく早い時期に、人間の人生がいかに短いものかを感じとってほしいということ。もう一つは好きなことに出会ったらそれを大切にしてほしいということです。

このメッセージが、これから様々な人生の岐路に立つ時に、新しい道を歩むためのきっかけの一つにつながれば幸いに思います。

多角的なアプローチによる語彙指導

法政大学 飯野 厚

はじめに

語彙は語学力の最大の源と言っても良いほど重要な要素です。英語の基礎力として文法や音声の重要性も常に叫ばれていますが、語の存在があつてこそことばとして働きをもつこととなります。本稿では、最新の語彙習得の知見にもとづいて、高校英語における英単語の指導を考えます。なお、辞書指導には触れませんが、その重要性は明らかですので、現場の先生にお任せすることにします。

1. 「範囲内」から「上限ではない」とされた指導する語

まず、新学習指導要領の語数について確認しておきましょう。これまでの指導要領では、語数は最大値として示された数の「範囲内」におさえることが指導されてきました。しかし、新学習指導要領に関しては「上限の語数ではない」と明言されています（高等学校学習指導要領解説、外国語編）。具体的に見てみましょう。

「コミュニケーション英語Ⅰ」（3単位） 中学校 1,200語＋新語400語＝1,600語
「コミュニケーション英語Ⅱ」（4単位） 英語Ⅰ 1,600語＋新語700語＝2,300語
「コミュニケーション英語Ⅲ」（4単位） 英語Ⅱ 2,300語＋新語700語＝3,000語

英語Ⅰは現行と同じ新語数ですが、ⅡとⅢでは1年間に最低700語の新語を扱わなければなりません。これらの数字は文部科学省の方針転換を大いに感じさせるものですが、現場には常に「新語の導入＝定着」ではないという悩みがついて回ります。高校1年生においては中学校既習語1,200

語が定着しているかどうか、個人差は指導語数が増えるほど大きくなる可能性を秘めています。それに関連する問題として、中学校の教科書で扱われている1,200語が中学の教科書（6種）によって大きくずれていることを高校では認識しておく必要があります（相澤・望月, 2010）。

高校2年生および3年生は毎年700語以上の新語を学ぶこととなります。「コミュニケーション英語Ⅲ」が「リーディング」を継承していると考えれば、これらの科目の標準単位数（4単位）に変更はありませんので、大きな学習負担となる可能性があります。

2. 受容語彙と発表語彙

高校生は何語程度の語彙を身につける必要があるのでしょうか。「必要」と言う以上、読むための語彙、聞くための語彙、話すための語彙、書くための語彙、専門分野のための語彙など、語彙学習には方向性が求められます。ここでは、読んでわかる・聞いてわかる語彙としての「受容語彙」(receptive vocabulary)、話して・書いて使える語彙としての「発表語彙」(productive vocabulary)という観点から考えてみましょう。いくつかの研究によると日本人高校生の受容語彙は2,000語～3,000語程度といったところです。非常に限られた数の研究しかありませんので、この範囲以上の語彙を持つ生徒やそうではない生徒も当然いますが、標準的に考えるとこのあたりでしょう。発表語彙に関しては、一般に受容語彙の半分以下とされていますので、先ほどの受容語彙数を基にすると1,000語～1,500語程度となります。発表語彙は受容語彙に比例して大きくなるという研究もあれば、EFL環境の学習者は受容語彙数が少ない代わりに発表語彙との重なりが多いとの研究もあり

ます。この2つの説から語彙指導のスタンスとしてわれわれが取るべき方向性は、受容語彙3,000語を1つの目安としながら、できるだけ発表語彙に転化する機会を作り出すこと、と言えそうです。

3. 語彙指導へのアプローチ

語彙指導には、導入・定着・拡張という3つの段階が考えられます。これらの段階には多様なアプローチで臨むことが効果を高めることとなります。導入には、文字・意味・音声との並列処理的アプローチ。定着には、繰り返し（反復）による行動主義的アプローチ、再認や使用による処理のレベルを深くする認知的アプローチが有効といわれます。さらに社会構築主義的アプローチとして、反復、再認、使用などの課題をペアやグループで協働して行うなども有効と考えられています。拡張については、定着した語を軸とした語形成や意味のネットワークなど、心的辞書（mental lexicon）を拡充するための認知的なアプローチがあります。

4. リーディング中心の語彙指導

先述の多面的なアプローチを視野に入れながら、高校英語でもっとも重視されるリーディングを中心とした授業を想定してみましょ。その中で、受容語彙を増やしつつ発表語彙化を図る指導について考えてみましょう。

(1) Pre-reading: フラッシュカード（導入・定着）

人が単語を見たり聞いたりしたときに、どのように情報処理をするかを語彙アクセス（lexical access）といいます。単語を見て最優先される処理の要素は音声情報だといわれています。次に意味情報、最後に意味のカテゴリーにあたる品詞情報といわれています（門田・池村，2006）。これは語彙知識が貯蔵されている深さが音声＞意味＞品詞の順になっている可能性を示しています。これを応用して、文字・音声・意味・品詞の4つの要素を効率的に指導できる手段は、フラッシュカードではないでしょうか。中学校では定番の教具ですが、高校では意外と見かけません（個人的な見聞による判断ですが）。新語の予習を重視する授業形態であれば、授業の最初に予習確認

のために使えます。また、新語の予習なしの授業ならば、プレ・リーディング活動としてオーラルイントロダクションを新語カードを取り入れながら行うなども良いでしょう。さらに、単語の意味が絵やイメージになる事象であれば、和訳以外に絵などで意味を示すこともできるでしょう。

つづり→音声、つづり→意味・絵（+品詞）、意味→音声など、提示方法とそれに対する応答の要求を工夫することで、語の持つ多様な知識の定着を目指すことができます。より深い処理をとめた発表語彙化を図るために、新語カードをランダムに提示し、その語を使って生徒なりの英文を作って発話するか書かせるなどすることも可能でしょう。教室環境が許せば、PCや教材提示カメラなどの電子教具を使うことで、紙とマジックなどを使うよりも簡便にカードを作ったり、使ったりできるでしょう。

(2) While-reading: 生徒が自力で読む時間の確保（導入）

本文の読解を行う前に、新語を事前に指導したり、プレ・リーディング段階の発問をしたりすることは一般的ですが、大切にしたいのは第1回目の通読です。生徒が英文テキストだけを見て自分の力で黙読してどこまでわかるのか、体験させたいところです。その過程で、意味が想起できない単語に出会ったら鉛筆でうすくマークを付けておくように指導します。このようにすれば、事前に指導した単語が実際の読解で受容的活用ができるかがわかります。また、生徒によっては、教科書が示した新語以上に未知語が存在する場合もあり、教師がそれらを認識するきっかけにもなります。単純な方法ですが、生徒自らに、どの語がわかっていて、どの語がわかっていないのかを認識させるメタ認知的な能力の育成を目指した読解の時間を確保したいものです。当然、新語の事前指導を全くおこなわない授業スタイルでもこのような活動はできます。「自力でどこまで読めるかチャレンジしてみよう。意味が思い浮かばない単語には鉛筆で下線を引きながら黙読してみよう」というところから新語を導入していく切り口もあるでしょう。

(3) While reading: 英文テキストの内容理解とともに新語の定着

内容理解を確認する方法として一般的な手法は、和訳とQ&Aと言えるでしょう。和訳においては、1文ごとの和訳よりも、文をフレーズごとに区切って和訳することにより、直読直解に近づける方法が普及しつつあるように思います。Q&Aについては発問に対する解答の過程で読む文章の一部に、あるいは解答の表現の中に、適度な数の新語が入ることで、語彙の意味処理が深まり定着につながります。また、文章内容のサマリーや図表の空欄補充など、読みとった内容から必要な語句を書き込むような情報転移の活動(information transferあるいはgraphic organizer)も効果があると言われていています。この3つの活動は、内容を理解しながら新語も扱うので認知的負荷は高くなりますので、本文の繰り返し読みを促します。結果的に、内容とともに単語も記憶に刻まれる可能性が高まります。また、答えを書いたり言ったりする中で新語を再生する作業は使用(発表語彙化)への橋渡しにもなります。

(4) Post-reading: 反復・再認・使用を促進する課題(定着)

新語を覚えるためにはどのような指導ができるのでしょうか。ここでは3つほど例として挙げておきます。

①単語リストの作成と利用(反復と使用)

新語のリスト(小型の単語帳など)あるいは暗記カードを作って、単語⇄和訳(スペースが許すなら、品詞情報や新語を含むフレーズなど含めても良い)の双方向の記憶テストを自分で、あるいはペアで何度も行うような機会を設けます。ペアならば、声に出す作業をからめて音声面の確認もできます。さらに、フラッシュカードのところで触れましたが、各カードの単語を使って英文を作って声に出して言う、といったペア活動などにすると定着を促進することができます。筆者の高校教員時代に、暗記カードを作る時間を授業中に設け、それを使ってペア活動やグループ活動をさせたことがあります。生徒は意外にも「初めて暗記カードなんて作った!」とか、「クイズ大会みたいで楽しい!」などとなにやら新鮮そうでした。

②出会った英文を何度も読む(反復・再認)

繰り返し読みは読解指導の基本ですが、再読を促す課題を与えて生徒自らの力で繰り返し読む主体的な活動にしたいものです。「語彙探索」(vocabulary search)の活動などは受容語彙の定着に有効だと思います。例えば、「絶滅の危機に瀕した言語」に関する題材を扱ったあとで、「ことば」や「数の増減」に関する単語をリストアップします。各自が判断した単語を見比べて議論するなどのペア活動にするとかなり盛り上がります。

繰り返し読みの課題としては、近年再評価されている音読が、語彙の定着という面からも有益と言えそうです。時間や回数あるいは読む際に注意すべき音声的特徴といった条件を設けた課題として、音読やシャドーイングをとり入れるとよいでしょう。音声情報も記憶に残りますので、聞く、話す状況に対応できる語彙知識につながります。音読の反復練習によって文字から音声に変換するための認知的な負荷が徐々に軽減され、意味にも注意力が振り分けられるようになるまで繰り返すことを指導したいものです。

③クロスワード、語義選択、空所補充、並べ替え、作文(再認・使用)

読解を終えたあとに、語彙に焦点を当てた課題を行った方がただ繰り返し読むよりも記憶に残るという研究があります(高梨, 2009)。これは意図的な学習(intentional learning)の方が偶発的な学習(incidental learning)を期待するよりも定着に有効ということです。また、課題の負荷(関与水準)によって定着の度合いにも差があるとされています。再認よりも再生、再生よりも使用(作文などでクリエイティブに)した方が関与水準は高くなります。したがって、文章を読み終えたあとにもう一度、単語に焦点をあてて何か課題を行うことは有効といえます。また、負荷の高い課題ほど記憶にプラスに働くと言えます。意図的な語彙学習は努力を裏切らない、と言えるでしょう。

5. 拡張

新語の導入、定着に関わる指導以外に語彙を拡張するための指導があります。紙幅の関係で2つだけ紹介します。

①語形成の知識を得る、活用する

語形成に関する情報を理解したり、それらを利用して意味を推測するなどの課題は、ある程度語彙増強に効果があると言われています。これは、語根 (root) の意味と、接頭辞 (prefix)・接尾辞 (suffix) の組み合わせから語の意味を導き出す方法です。基礎知識として、接頭辞と接尾辞における形式と意味のつながりを覚える必要がありますので、やや上級者向けの学習ストラテジーです。例えば、incredibleという語では、接頭辞 in-はnoとかnotの否定の意味であり、語根は creditで「信じる」の意味があります。語尾の -bleは able(できる)という接尾辞です。したがって「信じられない」となり、転じて「(信じられないほど) すばらしい」という意味になるなどと説明します。その後にさらなる例を示して意味を考える課題を与えたりします。比較的長い語に対して適用できる場合が多くなります。このような軸となる語(語根)とその派生語(接辞をともなった様々な語)をワードファミリーとしてひとくりにすることもできます。ファミリーの軸となる語を優先的に扱うことで、受容語彙をふくらますことにつながると言われています。

②意味地図で覚える

ある単語とそれに関連する語のつながりを、視覚的に示す図を作ったり、あるいは既成の図絵を利用したりして記憶する方法です。例えば、schoolという語に関連する語として、language, biography, social studies, principal, sick bayなど具体的な科目名や役職、場所など、想起できる語を英語にしてクモの巣状にして示すと理解しやすく、記憶にとどめやすいといわれています。また、野菜や動物、人の感情など、一定の範囲でつながりのある意味を示す語をまとめて提示します。語の集合が場面やテーマ別となるので、受容語彙の拡張はもとより発表語彙にも結びつきやすくなります。

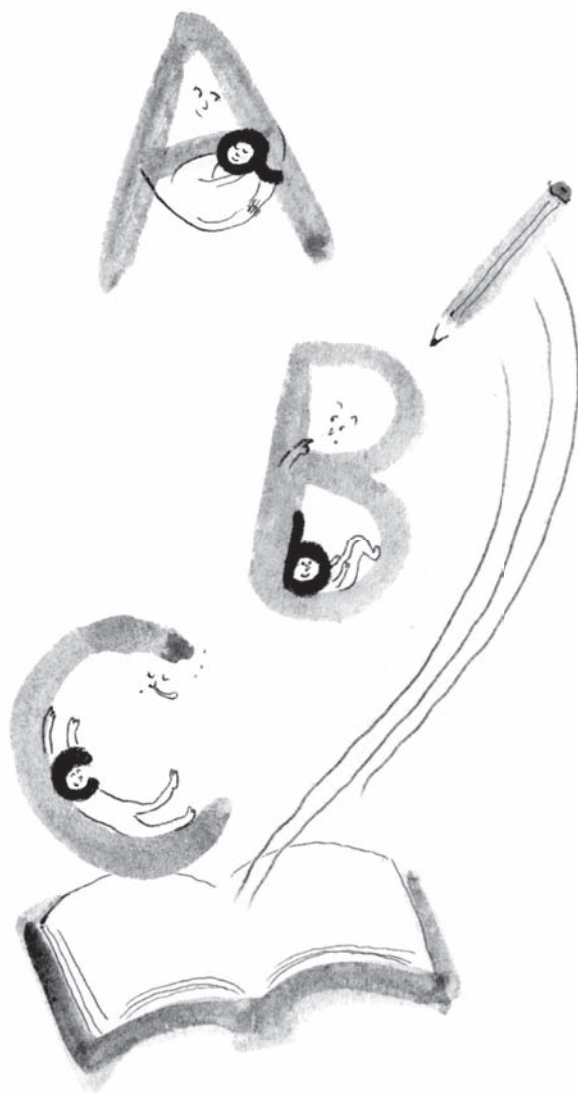
おわりに

語彙指導に限らず、日常の授業は生徒にとって英語の学習方法を体験するワークショップと位置づけることができます。例えば、単語カードは

個人用フラッシュカードともいえますので、教師が授業でフラッシュカードをどのように使っているかという指導技術が、生徒がどのように単語リストを使うかという学習方法に転化する可能性があります。語彙学習に早道はないのですが、学びのコツを教えることは今後ますます教師にとって重要な仕事の1つとなりそうです。

【参考文献】

- 相澤 一美・望月正道(2010)『英語語彙指導の実践アイデア集』大修館書店
 門田修平・池村大一郎(編著)(2006)『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店
 高梨芳郎(2009)『<データで読む>英語教育の常識』研究社



語彙力をつける指導法

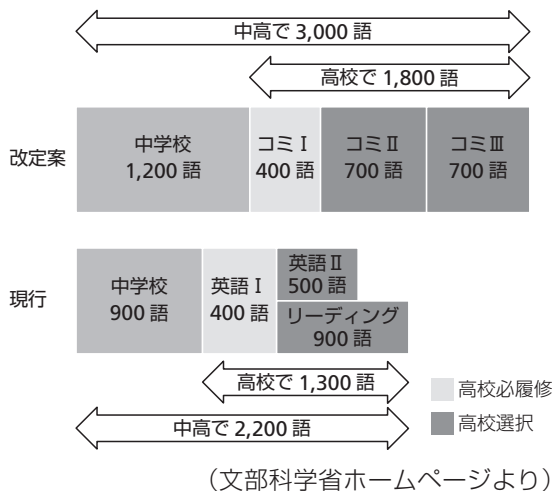
—授業の中で語彙を定着させていくための小さな提案—

玉川大学 日臺 滋之

はじめに

新学習指導要領によれば、中学では、指導する語数が従来の900語程度から1,200語程度へと増加しますし、高校では、合計で1,300語程度から1,800語程度へと増加します。中高における語彙総数は、現行の学習指導要領の2,200語程度から新学習指導要領では、3,000語程度へと増加することになります。

語彙数について



学習者の実態はどうか

筆者は、中学生、高校生、大学生を対象に英語の授業を担当してきました。教室で聞こえてきた声は、「単語が覚えられない」、「単語の並べ方がわからない」という声です。これは、深刻な問題であって、「単語が覚えられない」ということは、英文和訳・和文英訳ができない原因となり、このことは、コミュニケーションが不可能な状況が生まれてしまいます。また、「単語の並べ方がわからない」ということは、発話しても相手に理解されない、英語を書いても読み手に理解できない状

況が生まれるということになります。

中学校の語彙総数が900語の時でも、また高校の1,300語のときでも、生徒の声は「単語が覚えられない」、「単語の並べ方がわからない」状況であるのに、1,200語、1,800語になれば一体状況はどうなってしまうのでしょうか。

さて、教室での語彙指導はどうかと言うと、予習として単語の意味を調べてくるという課題等が一般的であり、語彙を覚えるのは学習者まかせであり、まだまだ教室では十分な行き届いた指導が行われていないのが現状です。本稿では、教室における具体的な語彙指導をいくつか提案したいと思います。

中学での学習の積み残しの問題

高校英語の役割として、高校では中学で学習したことを定着させつつ、さらに学習を積み上げていく。高校の授業では、中学での積み残しを教える必要もあると思います。その積み残しとは何かということですが、文法はもちろん、表現や語(句)もその一つだと思います。しかし、表現や語句の指導は文法と比べると軽視されがちです。学習者に任せてしまっている感すらあります。

表現活動を通して生徒がどのような表現を必要としているかを知る

筆者は、大学生だけでなく高大連携の一環として、某私立高校3年生48名の授業も担当しています。冬休み明けの1月最初の授業で、右記のワークシートを配布し、二人一組になり、冬休みの出来事について話してもらった活動を実施しています。2分間話す時間を与え、2分たったら、片方の列は固定し、一方の列の生徒に動いてもらいパートナーを代え、また2分間話してもらい、連

Let's Keep Talking for Two Minutes!

1.1 Build up your vocabulary!

冬休みに? during the winter vacation
 旅行場所でも何をした?
 went skiing in Hokkaido, visited my friend in New Zealand, went to my grandfater's house in Sendai played *hanafuda* (*hanafuda*, *mahjong*, *hanetsuki*), spin a top (駒を回した), flew a kite (凧上げをした), ate *toshikoshi soba* in New Year's Eve (大晦日に年越しそばを食べた), made rice cake (餅を食べた), toasted a rice cake (餅を焼いた), listened to the temple bells on New Year's Eve (大晦日に除夜の鐘を聞いた), visited a shrine on New Year's Day (初詣に行った), watched *kokaku utagassen* (red-white song contest) on TV (テレビで紅白歌合戦を見た)

いつ行った? left for Kyoto on December 25
 いつ帰った? came back from Kyoto on January 3
 交通手段は? by ship, by plane, by train, by car, by bus, went to Otsuka by *Shinkansen* (bullet train)
 旅行した相手は? with my family, with my friend, by myself
 滞在期間は? for a week, for twelve days

1.2 Let's talk to your friends about your winter vacation. Before you talk ...
 Write one topic you want to talk about.
 Write the related stories about the topic.

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.

話すためのメモですから英文ではなく単語で書きます!

1.3 Please write the expressions you wanted to say, but you couldn't in Japanese. (友達と英語の chat で、「こんなことを言いたかったけれど言えなかった」ということを日本語で書きなさい。)

続いて3回実施しています。タスクを繰り返すことにより、1回目よりは2回目、2回目よりは3回目の方がスムーズに話ができるようになります。

最後に、上記ワークシートの「英語で言いたかったけれども言えなかった表現」(1.3)を日本語で書いてもらいます。

類似した質問をまとめて、上位3名以上からの質問を列挙すると以下ようになりました。

1位: 「二泊三日」「三泊四日」をどう言えばいいかわからなかったです。四泊五日。五泊六日。滞在期間は? 何泊何日泊まった?(6名)
 2位: 「他には何をしたか」で「他には」という言い方がよくわからなかった。(4名)
 3位: 「お節」は Osechi で良いんでしょうか? おせちを食べた。おせち料理をお腹一杯食べた。(4名)
 4位: 時給はいくら?(3名)

実は、筆者が過去に中学校に勤務していたとき、同じワークシートで、同じ時期に、同じ2分間で、中学生に全く同様の活動を実施し、中学生がどのような表現を英語で言えないのか調査し

ています。わかったことは、中学生のときに英語で言えなかった表現は、高校生になっても、教えられる機会がなければ、言えるようにはならないということです。2位の「他に何をしたのか」(What else did you do? elseの使い方がわからなかったのでしょうか。)、3位「おせち料理」(Osechi, Japanese traditional New Year's food) は筆者が中学校に勤務していたとき、中学生から出た質問と全く同じなのです。このような中学校で積み残しされた表現を指導する必要があります。さらに、高校生になると、1位「二泊三日」はどう言うの?(three days and two nights) とか、4位「時給はいくら?」(How much do you get an hour?) といったいかにも高校生らしい質問が追加されます。

まずはこういった自己表現活動を高校でも行うことが必要だと思います。そして、自己表現活動に取り組みながら、生徒が活動に必要な表現を教えていくことこそ大切なのではないかと思います。このような学習者からの質問を集めた学習者コーパスは、すでに EasyKWIC2 (注1) に収められているので一度アクセスしてみてもでしょうか。また、このような「英語で言いたかったけれども言えなかった表現」をどのように指導したらよいかについては『コーパスワーク56』(注2) などをご覧くださいをお勧めしたいと思います。

授業の中で語彙を定着させていくための小さな提案

1. WordFlash を活用して教科書で導入した語彙を繰り返し提示し、語彙を定着させる

毎回こまめに単語テストをやっても、準備してこない生徒は点数に結びつかないし、語彙も定着しないと思います。授業の最初の5分間に、WordFlash (注3) というフリーソフトを使って、前時、前々時あるいは一つ前の課に出てきた新出語句を拾い出して、語彙の復習を行ってみてもどうでしょうか。語彙は繰り返し学習しないとたどころに忘却してしまいます。語彙の recycleこそ必要だと思います。まず指導が先で、単語テストはその後から実施すればよいと思います。

授業では、ラップトップのコンピュータとプロ

ジェクター、そして電子黒板（あるいはスクリーン）を準備します。あらかじめ、WordFlashをラップトップのコンピュータにインストールしておきます。

次に、下記のように、Excelで教科書の新出語句を英語と日本語が一對一に対応するように作成し、一方を英日ファイル、他方を日英ファイルとして別々に保存します。

personal	個人の、自分自身の
photographer	写真家
encounter	出会い

個人の、自分自身の	personal
写真家	photographer
出会い	encounter

(CROWN English Series I , p.7)

授業では、WordFlashを起動し、英日ファイルを選択すると、スクリーンに英語が表示され、その後、数秒して（間隔は調整可能）、対応する日本語が表示されるので、1回目は、英語が表示されると同時に、先生が発音し、そのあと生徒にあとをつけて言わせます。

英日ファイルを使って英単語が発音できるようになったら、次に、日英ファイルを選択します。日本語が表示され、次に対応する英語が表示されますので、日本語が表示されたとき、生徒に英語を言わせるようにするとよいと思います。

筆者は、大学1年生対象のIntensive Englishの授業でWordFlashを語彙の導入や復習に使用していますが、大学1年生でも電子黒板（あるいはスクリーン）に現れる語彙をきちんと声を出して発音してくれています。試してみませんか。

2. Read and Look upで教科書の英文を頭に入れる活動を通して語彙を定着させていく

中学校では、訳読だけで授業を終わりにすることは、まず考えられません。教科書の本文の内容がわかったところで、Chorus Reading→Buzz Reading→Individual Readingと音読指導をすすめ、Read and Look upを通して、教科書の英文を頭に入れるようにしていきます。教科書の英

文が頭に入らないと、つまり英文がinputされ、intakeされていないと、教科書の内容を自分の言葉で相手に伝えるようなoutputの活動は望めないからです。また、outputができないようですと、active vocabularyとしての語彙の定着もなかなか難しいのではないのでしょうか。

さて、Read and Look upですが、文が長くなるにしたがって、なかなか一文を丸ごと頭に入れるのは容易ではないと思います。その場合には、意味のまとまりごとに区切っていけばよいと思います。実際の授業では次のようにすすめていきます。

T: Look at the fourth line. 'I went to America for the first time'. Three, two, one. Look up and say.

S: I went to America for the first time.

T: Next, 'when I was sixteen'. Three, two, one. Look up and say.

S: When I was sixteen.

T: The fourth line. One more time. Two parts together. Three, two, one. Look up and say.

S: I went to America for the first time when I was sixteen.

T: Good. Let's go to the next sentence....

(教科書原文4行目から) I went to America for the first time when I was sixteen. Nowadays many young people go abroad; things have changed a lot since I was a boy. To me, America was a strange, far-away land. However, I had a dream to cross the ocean by ship and to hitchhike across America.

(CROWN English Series I , p.23)

授業の進捗から、全文が無理な状況であれば、ターゲットとなる文法事項を含む文（『CROWN English Series I』では、G-1、G-2の印がついています）を拾い出して、授業の最後にはRead and Look upの時間をぜひ持ちたいものです。

3. 復習でLast Sentence Dictationを通して、語彙の定着を確認する

前時に音読も終え、Read and Look upで教科書の英文が少しずつ頭に入るトレーニングを実施し、次時の最初には復習として、ぜひLast Sentence Dictationを実施したいものです。前時に学習した箇所の教科書の英文を用いて、一度Chorus Readingを行います。次に生徒に教科書を閉じさせ、教師が同じ英文を読み進め、途中で読むのを止めます。生徒は、聞こえてきた最後の一文を書き取ります。生徒は集中していないと最後の一文を書き取ることはできませんし、英文が頭に入っていないと一字一句正確に書き取ることはいけません。生徒に書き取らせたい文は、ターゲットとなる文法事項を含む文や、感動的な文を意図的に選ぶのがよいと思います。もし、そのことに生徒が気づき、事前にその文を練習してくればそれはそれでよいことではないでしょうか。

Last Sentence DictationではB5用紙を4等分した程度の書き取り用紙を配布し、復習として毎時間行うのが良いと思います。採点するにも1クラス15分前後でできてしまい、大して時間もかかりません。

実際の授業の流れは以下ようになります。

T: Now everyone, open your textbook to page 23. Please repeat the sentences after me.
(生徒は教師の後についてChorus Reading)

T: OK. Close your text book.

(Last Sentence Dictationの用紙を配布)

T: I went to America for the first time when I was sixteen. Nowadays many young people go abroad; things have changed a lot since I was a boy.

S: (生徒は教師が読んだ最後の文Nowadays many young people go abroad; things have changed a lot since I was a boy.を用紙に書きます。)

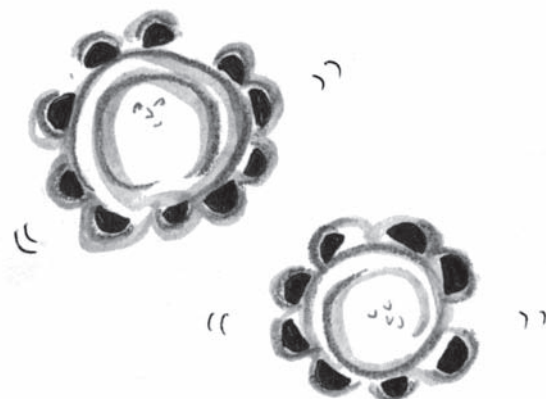
T: Does anyone need more time? (Yes.の応答がなければ) Please stop writing. Pass your sheet to the front.と言って用紙を回収します。

終わりに

最後に、辞書指導(注4)について触れておきたいと思います。中学の検定教科書の巻末には単語の意味が記載されていますが、ほとんどの高校の教科書にはそのようなものはありません。自分で辞書を引いて文脈から語義を決定しなくてはなりません。辞書の使い方を知らない高校生はそこで躓いてしまいます。それこそ語彙力をつけるどころの問題ではありません。高校の先生からは、中学校で辞書の引き方ぐらい教えてきて欲しいという声も聞きます。しかし、週3時間で辞書指導まで手が回らなかったことも確かです。週4時間になっても厳しい現実があります。高校では、まず学習ツールの使い方として辞書指導をお願いしたいと思います。辞書指導は生徒が言葉に興味を持ち、自分の力で語彙力をつけていく可能性を大いに秘めているのですから。

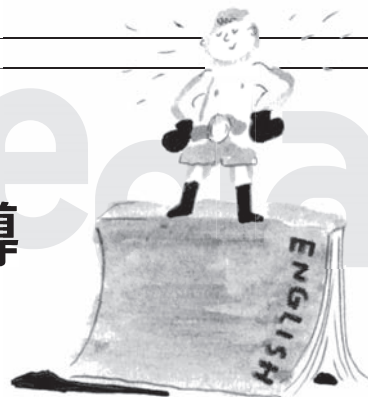
【参考文献】

- (注1) 上田博人. 2008. 「簡単な検索プログラム: EasyKWIC2」. 東京大学
(<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gengo/easykwic/index.html>)
- (注2) 日臺滋之・太田洋. 2008. 『1日10分で英語力をアップする! コーパスワーク56』. 明治図書.
- (注3) WordFlashは、<http://www.eigo.org/kenkyu/>よりダウンロードできます。(中英研・研究部ホームページ)
- (注4) 日臺滋之. 2009. 『中学 英語辞書の使い方ハンドブック』. 明治図書.



教科書を使い倒す語彙指導

佐賀県立佐賀西高等学校 執行正治



この4月で教師生活21年目を迎え、いわゆる進学校で教えるのは15年目となります。平成22年度は、1年生を担当し、この4月からは2年生を担当しています。教師生活の大半を進学校で過ごしたことから、生徒に英語力をつけるということは、少なからず大学入試を突破できるための英語力をつけることと考え、少しでも生徒の英語力を伸ばしてやりたいという一心で様々な実践を行ってきました。多くの失敗も繰り返してきました。現在の私の指導実践は、その多くの失敗と自分の劣等生的英語の学習者歴を踏まえたもので、特に、語彙指導を考えるとときにはこのことを抜きには語れません。しばらく私の失敗談にお付き合いいただきたいと思います。

1 劣等生的学習者としての私

自分が高校生のころ、市販の単語集を使って見たこともないような難しい単語を覚えました（正確には覚えようとしたが覚えられなかった）。当時は振り返ってみると、単語集を使っての学習はつらい思い出であり、ガタゴトという通学の列車の音とともに、ただ機械的に（どちらかというとも無理矢理）覚えようとした記憶が鮮明に蘇ってきます。

当時の私は全く英語ができない生徒でしたし、なまけものだったので、psychologyは「プシキョロギー」とessentialは「エッセンシャル」と読み、単語の意味も一番最初についているものしか覚えませんでした。その程度の英語力だったので、英語を読むというのは、私にとって読解というよりは解読で「英文を読む」からは遠くかけ離れたものだったので。

2 失敗を繰り返す指導者としての私

①追試の人数320人中270人

この数字は、前任校で10年ほど前に、毎週火曜日に行っていた単語テストの不合格者数です。前任校は全国模試で英語の平均偏差値が50前後でしたが、当時は検定教科書なんてほとんど使わず、受験用の問題集ばかり使って文法・訳読で授業を行っていました。約300ページの単語集を1年間で1回学習させるために、25回の単語テストを実施すべく範囲を設定して、機械的に行っていました。その単語集を授業中に取り扱うことはありませんでした。追試の数320人中270人はよくある数字であると同時に、そうやって指導してきた生徒の1人から、3年生の夏休みに、psychologyを「プシキョロギー」と発音されたときには大きなショックを受けました。

②売れ筋の単語集を使ってはみたものの

いわゆる売れ筋の受験用単語集を1年生の4月から使ってはみたのですが、ごく一部の生徒を除いては全くと言っていいほど覚えてくれませんでした。このときは授業中に読み合わせもし、範囲も生徒の負担を考えて設定したのですが、それでもなかなか覚えてはもらえず、単語は覚えられないんだという語彙学習に対する嫌悪感さえも持たせてしまったようでした。せっかく真面目に取り組んで覚えてくれた単語も、授業で使っている教科書にはあまり出てこず（特に、1学期の間）、覚えても目にしないので覚えた片っ端から忘れていったのです。冷静になって考えれば当然のことなのですが、その当時は気付かなかったのです。

3 現在の語彙指導について

数多く繰り返してきた失敗から、次のことを気にかけて指導を行っています。

- ①語彙指導は基本的に、英語Ⅰ、英語Ⅱの教科書を活用すること。
- ②単語集を活用した語彙指導でも、必ず音声を行った指導を授業で行うこと。
- ③考えながら学習した語彙は、身につけやすいし忘れにくいということ。

この3つを考えて昨年度は次のような実践を行いました。

- ①Lesson全体のWORD & PHRASEの語彙リストを作らせる。
- ②授業の最初に、これから学習するパートの単語テストを行う。
- ③2学期から単語集を使い語彙学習を始める。
- ④教科書を授業中に暗唱することができるようになるまで学習させる。

(1) 第1学年1学期の指導

①検定教科書を使い倒す

ここ数年、「検定教科書を使うことが、生徒の英語力をつける一番の近道」と考えるようになりました。以前は、教科書を使って学習しても大学入試突破のためには指導効率が悪いと考えていたのですが、使い方さえ間違えなければ、検定教科書がもっとも優れた教材であり、教科書を使い倒すためにはどのような指導をすればよいのかと考えるようになりました。

そこで、昨年度の1学期の指導ですが、語彙指導に重点をおいて話をする前に、昨年度の教科書の使用について話したいと思います。

【1学期の1レッスンの指導の流れ】

- (1時間目) 導入
- (2～5時間目) PART1～4の学習：各パート1時間で学習
- (6時間目) 全体のまとめ

【2学期の1レッスンの指導の流れ】

- (1～8時間目) PART1～4の学習：各パート2時間で学習
- (9時間目) 全体のまとめ

上記のような流れで各課授業を進めていきました。1年間を通して、各パートのすべての英文を暗唱・暗写できるようになるということが到達

目標でした。暗唱・暗写は最もわかりやすい語彙指導であると考えたからです。1学期は1パート1時間で学習させたのですが、2学期は各パート2時間で学習させるようにしました。それには2つの理由があるのですが、1つは2学期から授業の最初に約10分間、単語集を使って語彙を学習する時間をとるようになったこと。2つ目の理由は、1学期間指導していく中で、英文の長さにより若干の違いはありますが、内容をしっかりと学習した英文であれば、20回以上音読やシャドウイングなどの音声を伴うドリルを行えば、比較的負担が少なく暗唱・暗写ができるようになることが、わかってきたからです。比較的負担が少なくと申しましたが、これまでの失敗歴から、生徒に家庭学習で音読などの音声ドリルを20回以上行わせることは私の教師としての力量では絶望的なことでもあるので、授業中に、20回以上の音読などのドリルをさせることにしたのです。

②ワード&フレーズのリスト作成

次のようなリストを予習プリントとして生徒に渡しました。

WORD & PHRASE 辞書を使わずに日本語の表現に合う英語の表現を本文からそのまま抜き出さない。			
1	あなたは生まれた	21…	…
2	銀のスプーンをくわえて	22…	…

(CROWN English Series II より)

新出単語の発音指導や意味の確認は各パート学習の際に行いますが、1時間目の予習としてこのリストを作らせることとしました。生徒は家庭学習でレッスン全体を読みながらリストを作成します。英語の表現は与えていませんが、日本語のフレーズがレッスン全体を読むときの手がかりになると同時に、生徒はまず全体を自分なりに読んで、各パート細部の学習へと進んでいくことができるのです。1時間目は生徒に次の正解リストを配布し答え合わせをして、フレーズがきちんと読めるように、音声指導も併せて行いました。

1	you are born	あなたは生まれた	21…	…
2	with a silver spoon	銀のスプーンをくわえて	22…	…

WORD & PHRASEのリストはもう1つの活用方法がありました。期末考査が終わった時点で4レッスンほど学習しましたので、期末考査後の学期のまとめ学習の際に、このリストを使って語彙学習をさせることができるのです。このまとめの語彙学習のおかげで、2学期から学習することにした単語集を使っての語彙学習がスムーズに進んでいったと考えられます。非常に学習効果・利用効果の高い語彙リストでした。

③未習単語の単語テスト

授業では新出語彙自体の確認学習はしていませんが、WORD & PHRASEリストのおかげで、生徒はすでにレッスン全体のほぼすべての単語は読めるようになっていきます。もちろん、予習で単語の意味を辞書で調べてきておくことになっています。ですから、各パートを学習するときに未習語の単語テストを行うことが可能になるのです。実はこの単語テストは教師の側からすれば窮余の一策みたいな感じで始めました。予習として単語の意味を調べさせ、いくら本文中で使われている意味を考えてきなさいと言っても、なかなかそうはしてくれません。辞書の一番最初の意味を写してくるだけです。単語の本文中で用いられている意味を考えさせるために、この単語テストは次のように行います。

- ①出題数は単語10個
- ②出題範囲はパート全体（新出単語のみが出題とは限らない）
- ③出題方式は教師が単語を読み上げ、その綴り（Spelling）と意味（Meaning）を書く。
- ④生徒の採点。教師は答えを黒板に書く。
- ⑤意味については本文中で用いられている意味でなければ×
たとえば、bookが読み上げられても、本文中で「予約する」という意味で用いられているのであれば、「本」と書いてある解答は×
- ⑥綴りと意味が両方合って1点
- ⑦合格点は8点（不合格者には不合格者課題あり）
- ⑧平常点にカウントする。

いわゆる未習語の単語テストを行うことで、もちろんWORD & PHRASEのリストの助けもあ

り、純粹に未習単語の単語テストというわけではないのですが、本文中で用いられている意味を考えるようになりました。私はよほどのことがない限り、いつも授業の5分前には教室に行くようにしているのですが、ある日のこと生徒同士でこんなやりとりをしているのを耳にしました。「A君、今日どの単語がどの意味で出ると思う？」「helpが役に立って意味で出るんじゃない？」まさにしめしめです。

④単語集をいかに使うか

経験則ですが、単語集を用いての語彙学習は買いかぶるだけでは絶対にだめで、単語の音声CDがついていない単語集を使っての語彙学習は効果があまり期待できません。また、検定教科書の語彙学習がしっかりと行われていないのであれば、やはり効果は期待できないでしょう。単語集を使っての語彙学習を行う場合には次の点に留意しておく必要があります。

- ①単語と意味のみならず、1単語につきフレーズなり、英文なりが複数掲載されているものを採用すること。
- ②検定教科書の進度・内容に合わせて、導入時期を考慮して採用すること。
- ③掲載語彙が教科書で取り扱われているものを採用すること。
- ④単語集を使っての語彙指導を授業中に行うこと。

2学期にはWORD & PHRASEのリストを作らせることをやめたのですが、その大きな理由の1つは、2学期から導入した単語集が採用している検定教科書とぴったりと言っていいほどマッチングしていたからです。単語テストも本文で使われる意味を考えるという予習が定着したので、この単語集を使っての単語テストに切り替えました。しっかりと統計をとったわけではないのですが、たいていの英語Iの検定教科書はLesson5くらいになると、使用されている単語と市販の受験用の単語集の基礎編に掲載されている単語とのマッチングの度合いがかなり高くなってきます。このLesson5あたりに学習が進んでくると、生徒たちの単語集を使っての語彙学習への意欲も必然的に高くなります。

(2) 平成23年度4月以降の語彙指導について

英語Ⅱの授業では昨年度までの流れをほぼ引き継いだ形で指導を行っていきます。Writingでは、『CROWN Writing』を使って日常使う語彙と基本文法を確認しながら、授業を進めて行こうと考えています。予習としては、次のプリントを学習させます。教科書のPart1のLesson1とLesson2は時制がテーマですので、生徒たちが特に苦手とする完了時制に関するテーマで予習をさせていきます。自力では解けない生徒もいるので、全員に購入させている参考書を活用すれば解答を自力で作れる問題設定をしています。もちろん、このプリントには生徒が誤りを犯しやすいポイントが隠されています。

【予習プリント】

(1) 次の日本語を①～④の条件に合うように、英語に直しなさい。

「マイケルジャクソンが亡くなって約2年になる。」

- ① passと現在完了を用いて
- ② be動詞と現在完了を使って
- ③ Itで書き始めて
- ④ 過去時制を用いて

(2) 日本語を英語に直しなさい。

- ① 執行先生は8歳になるまでメロンを食べたことがなかった。
- ② 執行先生は20歳のとき、小泉今日子と4ヶ月間つきあっていた。

この予習プリントを1時間目の授業の前半のあとに、後半ではLesson1の基本構文で時制の基本事項の確認をして、授業中に教科書に載っている練習問題を解きます。語彙レベルは決して難しいのですが、高校生にとって生活実感のあるレベルの英文で問題が作成されているので、基礎・基本の確認にはもってこいです。表現するという観点から語彙指導をするには教室環境を考えると「書く」という活動を通して表現で使える語彙を増やすことが効果的であるように思えます。

同様にLesson2も学習したあと、時制のまとめとして、授業中に次のプリントに取り組みさせます。高校2年生の4月にしては、やや難しい問題設定ですが、実際の授業ではグループ学習を通し

て和文英訳を完成させたいと考えています。

【授業プリント】

(1) 執行先生が英語の達人だと自慢するのをたびたび聞か、実際に英語をしゃべっているところを聞いたことがない。

上の日本語の内容をほぼ同意の簡単な日本語で、簡潔に書き直しなさい。(箇条書きでよい) また、最も伝えたいと思う英文に下線を引くか、◎をつけなさい。

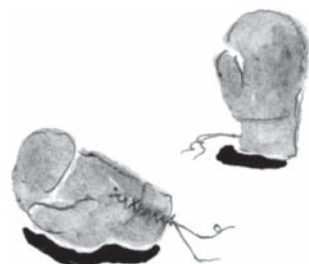
直した日本語を、絶対に正しいと自信のある英語で、英文に直しなさい。(以下略)

4 まとめにかえて

語彙指導に関して私が実践してきたことや、これから実践しようとしていることを述べてきましたが、語彙指導について大事なことは「生徒に考えさせた上で身につけさせる」ということです。言語を学んでいく上で、ドリルやトレーニングの重要性を否定する気は毛頭ありません。むしろドリルやトレーニングを積極的に行うべきだと考えていますし、授業の中にも積極的に取り入れているつもりです。けれども、大切なトレーニングやドリルも機械的に行うだけでは、言語が使えるように身につくはずはありません。我々教師は「正しく言葉を使って考える」「正しく言葉を使うために考える」ための指導を考えていかなければならないとも考えています。ここに述べましたいくつかの拙い実践例とアイデアが先生方の一考のヒントになれば幸いです。

【参考資料】

達人セミナー：谷口幸夫（都立戸山高等学校発表資料）
第7回英語教師塾：木村達哉発表資料



語彙指導 —理論と実践—

埼玉県立川越高等学校 江口秀喜



単語神話というものがある。単語さえ覚えればネイティブに英語が通じるとか、英語力が大幅にアップして受験でうまくいくとかいった類の信仰である。単語集が書店をにぎわし、受験生が真っ先に、あるいは最後の手段として飛びつくのも単語集、現場の教師達もこぞって単語集の丸暗記を奨励している。

言語学習理論や言語心理学等のフィルターを通さずに語彙獲得の方法論について考えると、様々な願望にも似た迷信が生まれてきてしまうようである。数多くの単語単体を丸暗記することが言語をマスターする近道であるとか、外国語のどの単語も母国語の言葉に全く問題なく置き換えることができるとか、単語集等で丸暗記した語彙は長期間にわたって記憶にとどまるものだとか、さらには丸暗記した語句は実際の場面でスムーズに高速処理できるものだとかいう結論に至ってしまうようである。

当然、語彙習得は言語学習において重要な部分を占めており、指導する側が何らかの形で指導を提供しなくてはいけないことは言うまでもない。問題は如何にすれば効果的な語彙指導が可能であるかということであり、そのためには言語習得のメカニズムを正しく認識した上でその理念と方法論について考察する必要がある。

言語学習理論の変遷

語彙獲得の手法について提案をする前に、言語学習理論の流れについて簡単に触れておきたい。1900年代にIvan Pavlovが犬に音叉を聞かせてからエサを与えることにより、音叉を聞いただけで唾液を分泌するようになるという、いわゆる古典的条件づけの実験を行った。行動主義心理学の始まりである。Pavlovにとって学習とは刺激

(stimulus) と反射反応 (response) の結びつきであり、この結びつきを成立させるためには強化因子 (reinforcement) の存在が必要不可欠である。そして、強化因子を省いてしまえば、やがては刺激と反射反応の結びつきが解消され、その学習は消滅してしまうとした。

1930年代に入り、B. F. SkinnerはPavlovの考えは動物の学習に当てはまるものであって人間には当てはまらないとし、人は自ら環境に働きかけ、それによって得た結果によって一定の概念または行動が強化され、学習が成立すると考えた。Skinnerは刺激と反射反応の結びつきよりも、環境に働きかけることによって得た強化因子の働きのほうが学習を成立させる上で重要であるとした。また、Skinnerは言語を言葉のoperant (環境への働きかけ=発話) の体系であるとし、子供は何の言語材料も持たない真白な状態の中でoperantを発し、強化因子を通して条件付けされ、言語材料を増やしてゆくものだと考えた。

行動主義派の主張する言語獲得形態はオペラント条件付け (自発的行動が報酬によって強化される条件付け) による言語習慣の形成であり、語学指導は、適切な強化を生じるよう綿密にデザインされたカリキュラムのもとでのverbal operant (強化を生じるよう環境に働きかける言葉因子) の練習に当てられるようになった。こうして、50年代、60年代、70年代初頭のアメリカはaudiolingual methodに強く影響されることになる。

1960年代に入ると、演繹的に事象を捉え、行動の奥底にある動機・心理構造を研究対象とする学派が生まれてきた。いわゆるDavid Ausubelらに代表される認知心理学の登場である。Ausubelは、学習とは人がそれまでに築いてきた

自己の認識体系に新しい事項を関連づけることによって成立するものであり、その過程においては「意味の存在」が重要な役割を果たし、「意味」を介在した関連付けこそが新しい知識を獲得したり、保持したり、あるいは自己の認識体系をさらに大きなものへと発展させることができると考えた。

機械的学習と意味的学習

Ausubelは「機械的学習 (rote learning)」と「意味的学習 (meaningful learning)」の違いについて明確に論じている。彼によると、機械的学習とは相互に関係のない事柄を意味を介在させずに認識体系に埋め込もうとする作業であり、この学習形態で獲得した知識は自己の認識体系の一部となることはなく、しかも直前 (proactive inhibition)・直後 (retroactive inhibition) にインプットした知識と相互に干渉・妨害しあい、打ち消しあうため、その記憶保持は極めて困難なものになる。郵便番号や電話番号の暗記がよい例であるが、たとえ自分に関係する番号は記憶できたとしても、多量の番号を長期にわたって記憶することはほぼ不可能なはずである。これに対して意味的学習とはこれまでに築いてきた自己の認識体系に新しい知識を絡み付けてゆく作業であり、新たに取り入れられた知識は既存の体系化された知識と相互作用をもち、簡素化された形でその認識体系の一部を構成してゆくことになり、長期保持が可能となる。ただし、このプロセスが成立するためには、「意味」が介在することが絶対条件であるとしている。

上記理論の興味深い点は、意味的学習によって得た記憶も決して永続的なものとは言えず、より包括的な記憶体系を形成するためにその大部分が失われていってしまうとした点である。むしろ、ある程度の忘却、つまり個々の知識の不要部分を削り落とすという過程を経なければ、自己の記憶体系は進化・発展してゆかないというのである。

このように見てくると、教育現場においては機械的学習を極力避け、意味的学習を主体とした教育環境を整えるべきであるという視点が見えてくる。また文法説明や語の定義といった個々の知

識は、学習者の記憶体系に概念化した段階でむしろ忘却を期待すべきであって、その正確な記憶保持を求めるのは理に反しているということもわかってくる。

単語単体を丸暗記してゆくという方法は行動主義派的理論に基づいた機械的学習による短期的暗記のための作業にすぎない。しかも、学習が成立するためには刺激と反射反応の間に直接的で明確な reinforcement の存在が不可欠であるはずなのに、それがどこにも見当たらない。つまり、行動主義派的観点から眺めても単語の丸暗記は学習として全く成立しない、意味のない作業なのである。

単語の頻度と言語的推測能力

次に単語の頻度という問題について言及しておきたい。多くの人は、頻度の高い語の数が少々と、頻度の中程度の語の数が大半、そして頻度の低い語が少々といった釣鐘状のグラフを思い描いているはずである。しかし、実際には頻度の高い語はごくわずかで、頻度の低い語になるほど多くなってゆくという右肩上がりの構造であることが報告されている。つまり、日常接する英文に出てくる語のほとんどが低頻度の語であるということになる。

ある研究によると1,104,235語から成る英文について調べたところ、頻度1位から10位までの語が全語数の4分の1を占めたという。しかも、頻度10位の語 (he) は平均106語ごとに、頻度100位の語 (down) は1,133語ごとに、そして頻度1000位の語 (reach) にいたっては9,568回に一度しか出てこなかったという。そして総語数のほぼ半分にあたる語が一度しか出てこなかったとのことである。このような事実をもとに語彙指導について考えると、コンピュータ等を駆使して学習者が将来遭遇するであろう単語を予測して覚えさせることの効果がどれほどのものなのかご理解いただけると思う。

ここで、人の持つ言語的推測能力について考察してみたい。子供が人の話を聞いたり、本や新聞を読んだりする際、初めて目にする語の意味を周囲の人に聞いたり、辞書を引いたりすることはまるで、無意識のうちに文法知識・現実世界の知識・

文脈等を活用しつつ、意味を推測しながら読み進んでいるように思われる。そしてその語に出会う度に意味の仮説を立て、文意の流れの中でその意味を検証しつつ、その語の持つ幅広い意味を獲得してゆくと考えられる。

人の発話・文章には言葉の繰り返し・言い換え・説明といった無駄な部分が数多く含まれている。いわゆる「言語の冗長性」と呼ばれるものである。実はこの興味深い言語の特質こそがコミュニケーションを円滑に進行させているものであり、初めて出会った語の意味の推測を可能にしているものなのである。冗長性を人為的に全て取り去った文は極めて不自然なものとなり、理解することが極めて困難になってしまうという。英語総合力を判定するテストとして評価の高い cloze test もこの言語の冗長性を活用したものであるし、言語的推測能力も冗長性という言語の特質の上に成り立つ技術なのである。

英語学習者が未知の語句に出会った時の反応は3つ考えられる。パニックになるか、すぐに辞書を引くか、その意味を推測しつつ読み進むかである。文脈から意味を推測する習慣を身につけていない者や予習などの際に新出語をすぐに辞書で調べる癖をつけている者は、試験やネイティブとの会話など実際の場面で往々にしてパニックになりがちである。

学問に王道なしと言われるが、学習者の語彙力を高めるためにすべきことは、単語集を使った短期的記憶のための機械的学習を奨励することではなく、語彙力不足を補い、自然かつ確実な形で語彙を増やしてゆくための語彙獲得技術である「合理的推測能力」を身につける場を提供することである。確かに、この種の教材を用意することは指導者側にとって決して楽な作業とは言えないし、学習者がこの方法で満足ゆく語彙力を養うためには数多くの英文に接する必要がある。しかし、この手法は最も確実で最も効果的な語彙の獲得法であり、また学習者にとって十分に楽しめる内容のものでもある。指導者は結果の期待できない手軽な学習法を奨励するのではなく、手間と時間はかかったとしても、長期的記憶のための意味的学習の場を整えるべきだと考える。

●「合理的推測」を指導する上での留意点:

1. 品詞や文構造の知識は「合理的推測」の基礎となるので、初期段階から指導する。
2. 接頭辞・接尾辞の知識も「合理的推測」の手助けとなるので、ある程度指導する。
3. however、therefore、dash (—) といったいわゆる discourse connectors や context clues と呼ばれるものも大きな手助けとなるので暫時指導してゆく。
4. イディオムは実際の英語での使用頻度が高く、また個々の単語の意味を合わせただけでは意味がわからないため、初期段階から指導してゆく必要がある。
5. 推測した意味の曖昧さを許容する気持ちを持つこと、辞書を使うべきか使わざるべきかを見極める判断力を持つことも指導するとよい。

以下に、語彙指導のための実践例をいくつか紹介するが、このような練習を行った上で、その語彙が含まれている英文を読ませることが理想である。

Pattern 1

問：下線部の語の意味を、文脈から判断してそれぞれ下から選びなさい。

1. I must adjust my watch. It is seven minutes slow.
1. 新品の 2. 既製品 3. 調整する
4. 取り替える
2. His conscience kept him from stealing the food. He has a good heart after all.
1. 悪意ある 2. 良心 3. 平常の 4. 警戒心
3. I looked back and felt sorry for what I had done to you. I really regret it.
1. 感謝する 2. 後悔する 3. 不満を言う
4. うれしく思う

Pattern 2

問：下線部の語の意味を推測してみよう。

1. Japan is composed of 47 prefectures, such

as Okinawa, Tokyo, Hokkaido, etc.

- The equator is an imaginary line drawn around the middle of the Earth at an equal distance from the North Pole and the South Pole.
- Unfortunately my father was dismissed from his job in January. He has been out of work for two months now.

Pattern 3

問：下線部の語の 1)品詞を考え、2)おおよその意味を推測し、3)辞書を引いて一番ぴったりだと思う意味を書いてみよう。

- The criminal didn't utter a word. He kept silent all the time.
1) _____ 2) _____ 3) _____
- I work part-time at Wendy's in front of the station. I earn about 3,000 yen a day.
1) _____ 2) _____ 3) _____
- We are running out of gas. We have to find a gas station as soon as possible.
1) _____ 2) _____ 3) _____

Pattern 4

Directions: Read the following sentences. Then, fill in the blanks with the best word or words.

- Solar energy is potential energy. It has not been developed so much yet, but is capable of being widely used in the future.
Potential energy is energy which has not been used yet, but is _____.
- This area is well-known for longevity. Many people live to be more than 80 years old. We do not know why they have such a long life.

Longevity means _____.

- The message was transmitted by wire. The sender was my father.
Transmit means to _____.

Pattern 5

Directions: Read the definitions and examples.

reduction n. decrease or cutdown

World arms reduction has been advocated by many leaders of the world. However, the fact is that the number of arms is increasing year by year.

contaminant n. a thing which makes the environment unclean

I was surprised that Mississippi River was so dirty. Jim explained that it was because the river contained numerous contaminants from the factories along the riverside.

pollution n. the state of the environment which has been made unclean through human activities

You sometimes have sore eyes in Tokyo during the summer. It is caused by a kind of pollution from the mixed effects of sunlight, heat and waste gas from automobiles.

Exercise: Select the best word for each of the blanks below. Choose **reduction**, **contaminants**, or **pollution**.

One of the big problems which Shanghai faces today is air _____. The air used to be clean a decade ago, but no more. The _____ which cause this problem are mainly from automobiles. Since controlling the number of cars is not realistic, the _____ of waste gas seems to be the only alternative. This is not impossible with today's highly developed technology.

教科書中心の指導実践

東京都立富士高等学校 残間紀美子



はじめに

“語彙の習得”それは言語学習における永遠の課題といっても過言ではない。読む・書く・聞く・話すといった全ての言語活動の礎となる語彙力の習得は、言語の習得において最も時間と労力を必要とする過程であるといえる。一昨年告示された新学習指導要領においても、中学校では現行の900語程度から1,200語程度に、高等学校では現行の1,300語程度から、「コミュニケーション英語Ⅰ」で400語程度、「コミュニケーション英語Ⅱ」で700語程度、「コミュニケーション英語Ⅲ」で700語程度、総計1,800語程度まで指導する語数を拡充することとなっており、いかにして学習者に効果的に語彙を習得させていくかと

いうことは、中学校、高等学校の教員にとって大きな課題となりつつある。

語彙の習得

ある語彙を“習得する”とはどういう状態を指すのか。文字を見ると意味はわかるけれど音声で聞くとわからない。書けない。発音できない。単に読んで意味がわかるだけでは習得したことにはならない。Nationによれば、ある語を知っているということはその語の様々な側面（語形・意味・使用）の知識を持っていることである。具体的には、下の表（望月，2003）のようにまとめることができる。

語形	音声	受容	語がどのように聞こえるかを知っている 例) [baisik] と聞いて、実在する語だとわかる
		発表	語をどう発音すべきかを知っている 例) [baisik] と発音できる
	綴り	受容	語がどのように見えるかを知っている 例) bicycleという綴りを見て語だとわかる
		発表	語をどう綴ればよいかを知っている 例) bicycleという綴りを書ける
	語の構成要素	受容	どのような語の構成要素が見られるかを知っている 例) bi-とcycleが一緒になった語だと知っている
		発表	意味を表すのにどのような語の構成要素を使えばよいかを知っている 例) bi-とcycleを一緒にして使える
意味	語形と意味	受容	この語形はどのような意味を表すのかを知っている 例) bicycleという語形を「自転車」という意味と結びつけられる
		発表	この意味を表すのにどのような語形を使えばよいかを知っている 例) 「自転車」という意味を表すのにbicycleという語形を表出できる
	概念と指示物	受容	この概念には何が含まれるかを知っている 例) bicycleという概念には、「健康に良い」「地球に優しい」などの含意があることを知っている
		発表	この概念が指すものは何かを知っている 例) 実物・絵・写真・おもちゃの自転車を「自転車」という概念と結び付けられる
	連想	受容	この語は他のどのような語を連想させるかを知っている 例) bicycleという語が、bike, cycle, ride, mount, wheel, frame, chain, stealなどの語を連想させることを知っている
		発表	この語の代わりに他のどのような語を使えばよいかを知っている 例) bicycleの代わりに、bike, cycleを使えばよいことを知っている

使用	文法的機能	受容	この語はどのような文型で現れるかを知っている 例) bicycleという語は名詞で、文の主語、動詞の目的語や補語、前置詞の目的語として現れることを知っている
		発表	この語はどのような文型で使わねばならないかを知っている 例) bicycleという語は名詞で、文の主語、動詞の目的語や補語、前置詞の目的語として使うべきことを知っている
	コロケーション	受容	この語はどのような語と一緒に使うかを知っている 例) bicycle という語は、ride a bicycle, mount a bicycle, a racing bicycle, a missing bicycle, chain a bicycle to... のようなパターンで使われることを知っている
		発表	この語はどのような語と一緒に使わなければならないかを知っている 例) bicycle という語は、ride a bicycle, mount a bicycle, a racing bicycle, a missing bicycle, chain a bicycle to... のようなパターンで使うべきことを知っている
	使用時の使用域・頻度	受容	この語はどのような文脈でいつ、どれくらいの頻度で目や耳にするかを知っている 例) bicycleという語は、中立な (neutral) 文脈で使われ、頻度の高い語であることを知っている
		発表	その語がどのような文脈で、いつ、どれくらいの頻度で使うことができるかを知っている 例) bicycleという語は、中立な (neutral) 文脈で使うことを知っている

(『英語語彙の指導マニュアル』第2章「単語を知っているとはどういうことか」, 大修館書店より)

このように、ある語彙を知っているとは、その語彙の様々な側面の知識を持っていることであるとしているが、ここで特筆すべきは、英語母語話者であっても語の様々な側面を一様に知っているわけではないということであり、学習者同様、語彙の知識は個々の年齢やおかれた状況によって変化していくということである。英語母語話者であっても一部の側面の知識しか持たない語彙もあるということであり、指導者は、学習者の習得レベルや学習目的に合わせてどの語をどこまで教えるかという指導目標を持つ必要がある。そのためにはまず教師が教える単語について十分な知識を持たなければならないのである。

語彙指導とは

語彙力の重要性については誰もが認識するところであるが、日本の英語教育においては、体系的な語彙指導という概念は新しい。語彙の定着・増強はもっぱら生徒・学生自身の学習にゆだねられることが多かったようである。もちろん語彙習得に学習者の努力は不可欠であるが、その努力を効果的に導くためには教師の指導が重要となる。学習者の学習動機や能力を踏まえ、「何をどれくらい覚えるべきか」を提示するとともに、「効果的な提示」「語彙の定着」「習得語彙のアウトプット」をはかる指導が英語力の伸長に大きく影響すると考えられる。そしてその指導は、リーディングの活動においてのみならず、リスニング、ライ

ティング、スピーキングの諸活動の中でバランスよく行われることが必要である。

教科書を中心とした語彙指導

昔には英語入試をコーパス化し、入試出現単語の94%強をカバーできる、あるいは記憶の効率を最大限に追及した単語集など、優れた単語集、副教材が溢れている。確かに多くの語彙を効率的に覚えるには良いかもしれないが、それだけでは入試に対応できる英語の力は身につかない。語彙の定着・増強を英語の学習指導全体の中で考え、個々の指導を有機的につなげて学習者の英語力を向上させるような実践が積み重ねられなければならない。

その際、語彙の拡充のために教科書とは別の教材を使用することは生徒の負担を増すことになる。更に、教科書とは全く違うことを同時に学ぶことによって混乱をきたし、非効率的である。したがって、教科書を核にして足りない部分を補うという指導が非常に効果的であるといえる。

教科書掲載の語彙で入試に対応できるか

大学進学を希望する生徒が大半を占める高等学校において最も気になることは、果たして教科書に載っている語彙のみで大学入試に対応できるのだろうかということであろう。

三省堂のデータによれば、語彙的には『CROWN English Series I・II』および『CROWN English

Reading』の教科書のみでセンター試験で出題される語彙の85%（リスニングにおいては90%）の語彙をカバーすることができている。加えてWritingの教科書を使用し、更にワーク等の教材、指導書付属の例文集、評価問題集を使用することにより、十分入試に対応できる語彙力を養うことができるといえる。

実際、勤務校での3年間を通じた指導の中で、全く塾や予備校に通わず、英語の力を大きく伸ばし、進路実現をはかった生徒達の存在が教科書中心の指導の有効性を実証している。指導の中で語彙の拡充に関してはこだわった点がいくつかある。以下、具体的な実践とそのポイントを挙げてみたい。

教科書中心の指導実践

3年間という限られた時間の中で、本校の生徒達が英語学習に費やすことのできる時間は多くはない。部活動に学校行事、彼らにはやるべきこと、やりたいことが山積みである。それらをこなした上で受験に対応できる語彙力を身につけることが要求される。ここで述べる語彙力とは、単なる語彙知識の拡充にとどまらず、その語彙を「使える」ようにする、つまりその知識を学習者が自動化して表出し、使用できるようにしなければならないのである。限りある時間の中で、もっとも効率的な語彙テキストの提示の仕方考えたとき、教科書中心の指導が最適であると判断した。特に、英語Ⅰ、英語Ⅱ、Reading、Writingの教科書の内容を系統的に学ぶことによって、高校段階で学ぶべきテーマを網羅し、大学入試レベルのあらゆる分野に対応できる内容がバランスよく配置されているCROWNのシリーズを使用することは非常に効果的であると考えた。

・語彙拡充のために教科書を最大限に活用→教科書の内容を授業で全て網羅

本校では1年次に三省堂の『CROWNⅠ』、2年次に『CROWNⅡ』と『CROWN Writing』、3年次に『CROWN Reading』と『CROWN Writing』を使用したが、その際にこだわったことは「オプショナル・リーディングも含め、全ての内容を授業中に網羅する」ということである。教科書の内

容に加えて、ワークや例文集、補充問題まで網羅することによって、教科書を中心とした授業の中でインプットの量を十分確保することを目指した。CROWNのシリーズは、数ある教科書の中でも非常に高いレベルにあり、十分な理解をはかりながら全ての内容を網羅することは生徒にとっても指導する側にとっても大変であることは確かである。特に、学校での授業が1月初旬で終了し、自宅学習期間に入ってしまう3年生のReadingにおいては、ボリュームのある教科書を網羅するのは容易ではなかった。しかしながら、時間をかければそれだけ理解が深まる結果になるわけではない。逆にスピード感を持って教科書の内容をこなしていくことから生まれるリズムと、そのリズムがもたらす抜き差しならない緊張感が、日々の授業の学習効果を高めることになる。スピードが脳を活性化させ、情報処理の速度を上げる。そして更に、緊張感によって高まる集中力が、語彙を含め、学習事項の定着に大きく作用するのである。

生徒の習熟段階によって指導方法を工夫し、内容の扱い方に軽重をつけ、また家庭学習を有効に授業計画の中に組み入れることで、教科書に出てくる語彙を余すところなく習得することを目指した。

・高校1年次—英語Ⅰにおける発音指導

こと大学受験を意識する、しないにかかわらず、高校段階での英語学習指導における最終目標は「自律的な英語学習者を育む」ことである。語彙の習得についても、初期段階に自立的に語彙の増強をはかることができる力を養うことが肝要であり、その力をもとに順次学習方略を進化させ、各自の学習スタイルを確立していくことができるかどうか、その後の学習に大きな影響をおよぼす。

その意味で、高校1年生段階の入門期に発音指導は欠かせない。英単語が読めない、書けないことが最も初期の段階のつまずきとなるからである。繰り返し発音させることで英語の音やリズムに慣れ、声を出しながら英文を書くことで単語が習得しやすくなることを体得させる。

発音指導の重要性は正しい発音を身につけるだけにとどまらない。語の発音は、ワーキングメ

モリ内の音韻ループ (phonological loop) でのリハーサルによって語を習得するのに必須のものであり、語の意味を活性化するのもにも不可欠な役割を果たす。したがって発音指導においてはそれぞれの音素の発音やスペリングとの関係に留意しながらも、単語単位で十分に繰り返して身につけられるように工夫する必要がある。

また、発音記号を読めるようにする指導は、辞書指導とともに、自立的な語彙学習を促進する礎となる。特に発音記号は中学校時点で習得していない場合が多く、高校1年の早い時期に一通り網羅しておく必要があると考えている。そこで『CROWN I』に載っている発音記号のまとめを集中的に指導した。

発音記号を学ぶことによって日本人には意識しづらい微妙な発音の違いを意識することができる。何より、発音記号を意識して音読の練習を続けることによって英語の発音が非常に良くなる。入門期の発音指導が、その後の総合的な英語力の伸長に及ぼす影響は非常に大きいと考えている。発音指導を実施する際、歯磨き指導用の大きな歯形の模型を使用して発音記号とその調音の仕方を具体的に説明することになっているが、早稲田大学教授である松坂ヒロシ先生より教えていただいたこの手法が生徒達に与えるインパクトは非常に大きく、その効果は絶大である。

・英語での語彙定義の提示

1年次から徐々に語彙の定義を日本語訳としてではなく英英辞典の定義で提示することに慣れさせ、3年次には全ての語彙について英語での定義を与え、読み取らせる指導を実施した。英語の定義で語彙を理解することにより、その語が持つ中核的な意味をはっきりとした形で学習者に与え、理解させることができる。それによって学習者は、英語と日本語が1対1の対応をしているわけではないことを理解し、複数の訳語を持っている語の語彙情報を活性化させ、その文脈にあった意味を考えることができるようになる。この指導では、語源やイメージを与える指導とともに語彙の活性化に大きく寄与し、語彙習得に効果があると考えられる。

おわりに

外国語の学習において学習者が最も重要と感じることは語彙の学習であるという指摘 (Hatch 1983)、さらに語彙知識のリーディングにおける重要性や、語彙力と語学能力間にある相関関係の高さを指摘する研究もなされている (Luppescu and Day 1993)。このような状況の中で、語彙に関する関心はますます高まってきており、認知や脳科学の研究、あるいはコーパスを基にした研究等、様々な側面から第2言語習得に関する新しい知見が得られ、その理論を教室での語彙学習指導へと統合する実践も多くなされている。本稿では教科書を中心とした語彙指導の実践について述べてみたが、先進的な具体的事例は望月・相澤・投野 (2003) や門田・池村 (2006) に詳しい。是非参考にされたい。

【参考文献】

- Nation, I.S.P.(2001), *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press.
 Hatch, E.M.(1983), *Psycholinguistics: a second language perspective*. Rowley, MA: Newbury House
 Luppescu, S. and Day, R.R. 1993. Reading, dictionary, and vocabulary learning. *Language Learning*, 43, 263-287.
 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (2003), 『英語語彙の指導マニュアル』. 大修館書店.
 門田修平・池村大一郎 (2006), 『英語語彙指導ハンドブック』. 大修館書店



予備校・英語塾から見た 語彙習得の課題

Language School ～航～ 代表／元四谷学院講師 中山 航



はじめに

高校生は、単語帳を使って英単語を「習得」してから長文に取り組むことが多い。最近では、中学生でも単語帳を使うようだ。だが、これは「正しい」学習法なのだろうか？ 本来は、英語で書かれた多くのtextsに触れて、生きた英文から必要な語彙を得るのが言語の自然な習得だと思われる。母語の習得過程と比較すれば明らかだろう。

しかし現実には、高校生が触れるtextsの量は、センター試験をはじめ大学入試に必要な語彙を形成するには少なすぎる。また、始めのうちは、文の最小単位と言える単語を知らなければ英文を読むことができないことも事実である。したがって、受験生が英単語帳を使う意義を考えることも必要だろう。

単語帳の使用法と留意点


中高校生の多くは、自身の知的レベルよりも低い英文を読んだり聞いたりすることから始める。本格的に英語を勉強し始めるのが中学生以降であることから仕方がないことではあるが、日本語を通して得るものと習い始めの英語を通して得るものに大きな差があるのが現実である。しかし、特に難関大学の入試では、欧米の知識人向けに書かれた、高度な、時に生徒自身の知的レベルより高い文章が出題されるため、受験生は、現代文の学習と比べて、きわめて短期間でまず自分の知的レベルに見合うまで語彙力を引き上げなければならない。そこで、短期間で効率良くキャッチアップを行う手段として単語帳を使用することを考えることになる。単語帳を使用すると効果的であると思われる場面を、以下に挙げておく。

①受験勉強のスタートダッシュ——入試で出題される英語の長文を読み始めるうででストレスを感じすぎないために単語帳を使う。一文中に5つも6つも知らない単語があつては、英文を読む気にもならないだろう。そのために受験勉強の初期段階に集中的に語彙を増やすことは有益である。語彙習得の効果をわかりやすく実感させて、生徒の意欲を高めるためには、あまり難しいものではなく、センター試験レベルの頻出語彙の習得を目的とする単語帳から始めるとよいだろう。

なお、英文法の学習を徹底すれば英文を読めるようになると信じて、英文法の問題集、参考書のみを繰り返すのは危険である。なぜなら、初学者用の英文法の問題集で扱われる英単語は会話調のものが多く、大学入試長文に出てくる重要な英単語はあまり出てこないからである。

②(相対的な)到達目標を知る——同レベルの単語帳であれば、収録語彙に大差はない。方法論の違いだけである。だとすれば、1冊仕上げれば他の受験生に対するハンデがなくなる可能性が高く、習得語彙の偏りもなくなる。読んだ長文に出てくる単語を覚えるだけでは必要十分な英単語を得られないのではないかとという生徒の不安感を消すためには有効な手段だろう。

③習得した英単語をチェックする——この単語帳の使い方こそ一番推奨すべき方法だと思われる。中級程度(英検準2級～2級程度)の英単語をものにしたと思ったら、サプリーダーなどを活用してさらに多くの英文を読み、その後自分が触れて辞書を引いた英単語がどれだけ単語帳に載っているか確認していくと効果的である。知らない英単語ばかり載っている単語帳で無理やり全部憶えろといっても無理がある。単語テストを行ってもあまり成果がでないのは、生徒がshort-term



memory（短期記憶）を使って無理やりテスト前に頭に詰めこみ、テストが終わったらすぐ忘れてしまうからである。したがって、上級の語彙に関しては一気に覚えさせようとするのではなく、リーディング（望ましくはリスニングを）教材と併用する形を検討するとよいだろう。

単語帳の使用に関しては留意点もある。多くの生徒は、英単語を見て対応する日本語が出てくれば、英単語を「習得」したと誤解している。しかし、そのような学習法で単語帳を「仕上げた」からといっても、真に英語を読んだり聞いたりする自信がつかわけではない。例えば、私が予備校で教えていたとき、その予備校が認定する最上位の語彙力を得たはずの生徒こそがかえって長文を読む不安を抱えていた。その背景には、各単語が持つ知的文脈を無視して、機械的な暗記作業のみを行っていることがある。単語帳を使うと短期間で学習が進み、確かに達成感が得られやすい。しかし、相手の伝えたいことを理解するため、自分の理解してほしいことを伝えるために、語彙力を増やしているということを忘れてしまっては、英単語を憶えたつもりなのに、理解できない、伝えられないという不安ばかりが増してしまう。

私立難関大学向けの予備校の授業で産業革命の経緯と背景を説明していたとき、ある生徒が「なぜそんな無駄なことを説明するのか」と質問してきて愕然としたことがある。生徒にしてみれば、単語と構文を押さえて和訳をし、設問の解答を早く知ることができれば勉強は終わり、という意識なのだろう。しかしそれでは、上位の大学で出題される英文を理解することなどとても望めないし、英語を学ぶ意義も薄れてしまう。語彙学習の最初の段階で、単語と和訳の対応を覚えるのは序章に過ぎず、単語が用いられる文脈背景の理解が不可欠である。こうすることで英単語の理解を深め、記憶として定着できるからである。

市販されている単語帳には、以下のようにさまざまな覚え方を提唱するものがある。

- ① 1単語と日本語訳のみを覚える
- ② 1単語につき1フレーズで覚える
- ③ 1単語につき1例文で覚える
- ④ 1例文につき複数の英単語を覚える

それぞれ一長一短であり、好みとレベルに応じたものを用いればよいだろう。しかし、日本語に比べて、単語の多義性が高いと言われる英語の学習では、⑤長文の中から重要単語を覚えるプロセスが欠かせない。文と文のつながり、パラグラフとパラグラフのつながり、論理関係等が分からないことには、真の意味での語彙の習得は不可能ということをお忘れなくしたい。

long-term memory（長期記憶）化を図る

単語帳を生徒に持たせる主な理由は、生徒に英単語を定着させることであるだろう。しかしパッと憶えてパッと忘れられてしまっただけでは目的を達成することはできない。かえって生徒に無駄な時間を過ごさせ、英語嫌いの大きな要因になってしまう。だとすればどのように英単語を定着させるかを考えるべきだ。

short-term memoryからlong-term memoryにするためには、繰り返しが必要だ。しかも、ただ繰り返すのではなく工夫が必要だ。

①感情・気持ちをこめる

“I'm satisfied with the result.”という例文を暗い雰囲気でも、“The news made me sad.”という例文を感情をこめずに言っても、なかなか身に付かない。意味を実感せずにおうむ返しで暗唱しようとしても、字面の上滑りになってしまう。経験上、発音、アクセント、イントネーションも含めて指導し、生徒にrealityを感じさせた方が定着が良いようだ。

②多角的な記憶・理解を推進する

大学入試では、暗記した情報や知識だけでは対応できず、ましてや英単語を日本語に一対一対応で置き換えるだけではまるで歯が立たない。最初は一対一対応の暗記で精一杯かもしれないが、私の塾では、基礎的な語彙力が確立して行く段階で、以下の学習方法を順次導入している。

1) 類義語、対義語をとともに押さえる

・類義語：英語では、パラフレーズ、言い換えが非常に多く、入試でも頻繁に出題される。

・対義語：英語の基本であるLogic(symmetry: 左右対称にとらえる)を理解する意識が生まれる。

2) 英英辞典あるいは英英の説明のある単語帳を使う

- ・英語を英語で理解するきっかけとなる。
- ・パラグラフ・リーディングにおいて、Supporting sentencesを読んで筆者の主張を理解する疑似体験になる。

3) ラテン語由来の英単語を派生語を含めて学習していく

ラテン語由来の英単語について、次に詳しく説明してみたい。

接頭辞 (prefix)、語根 (word root)、接尾辞 (suffix) を使って理解する

大学入試では、レベルが上がれば上がるほど、アカデミックな英文が増え、使われる単語もラテン語系のもが多くなる。こうしたラテン語系の英単語は、接頭辞、語根、接尾辞という構成が分かれば、語彙を理解しやすいばかりか、類義語や対義語、派生語も関連付けて獲得し、長期記憶化することが期待できるから、一気に語彙力を高めることが可能である。これらの情報は近年の単語帳には記されていないことも多く、授業中に適宜補足して注意を喚起する必要がある。

接頭辞等の導入についても、1つの意味を教えるだけで済ますのではなく、生徒の定着度を見ながら、少しずつ多角的に行うことが望ましい。

接頭辞“dis”を例にとってみよう。

接頭辞“dis” (分離、分散、否定) を含む単語例

☆“disadvantage”「不利(な立場、状態、条件)」
= “dis” (否定) + “advantage” (有利、強み)

☆“disagree”「意見が合わない、反対する」
= “dis” (否定) + “agree” (賛成する、同意する)

☆“disappear”「消える、消滅する」
= “dis” (否定) + “appear” (見えてくる)

こうしてみると“dis”はただ単に「否定」と覚えておけばよいと言われそう(英単語帳にも「否定」のみが載っているものがある)だが、できればタイミングを見はからって、①「分離」の意味も押さえた方がよい例と、②「分離」の意味で押さえないといけない例を導入していきたい。

①「分離」の意味で押さえた方がよい例

☆“disclose”「～を暴く、暴露する」

“close” (閉じているもの) をただ単に「否定」する (開ける) より、「バラバラにする」とした方が、「暴露する」感じがしないだろうか。

☆“discover”「～を発見する」

“cover” (覆われているもの) をただ単に「否定」する (開ける) より、「バラバラにする」とした方が、「発見する」感じがしないだろうか。

②「分離」の意味で押さえないといけない例

☆“distribute”「分配する、割り当てる」

“dis” (バラバラに) “tribute” (贈る)

※「与えない、贈らない」ではない。

☆“disperse”「四方にまき散らす」

“dis” (バラバラ) に “perse” (まき散らす)

※「まき散らさない」ではない。

接頭辞、語根、接尾辞を使って英単語を学ぶことで、長期記憶化し、忘れづらくなるが、接頭辞dis-を単純に「否定」とだけ教えて生徒への説明を簡略化してしまうような方法では、後に矛盾や誤解を生む可能性がある。これは、教師が思っている以上に深刻な影響を与えることがある。

次に、誤解が生まれるメカニズムとその解決方法について、若干の説明を試みたい。

英単語を憶える上で邪魔する記憶のメカニズムと解決策

英単語を憶えようとする時に起こる問題は、ただ頭に入ってこないというだけではなく、①前に憶えたことが邪魔をして新しいことが憶えられない、あるいは②新しく憶えたことが前に憶えたことを忘れさせたり、そこまでいなくても混乱するという現象も見られる場合がある。

①のような状態を逆行抑制 [干渉] (retroactive inhibition [interference])、②のような状態を順向抑制 [干渉] (proactive inhibition [interference]) という。

自分自身の学習者時代のことを思い返すと、①の例としては、“be indifferent to～”が、前に憶えた“different”の干渉を受けて覚えられなかったこと、②の例としては、“distract” / “distraction”が、前に憶えた“destroy” / “destruction”のスペルと混ざってしまったことが挙げられる。

解決策

こうした問題を解決する手段としても、接頭辞、語根、接尾辞の分析が大いに役立つ。

反復練習を指示するだけではうまくいかない場合、以下のような理屈を説明すると、生徒の誤解が解決し、語彙が定着する可能性が高まる。ここでは、順向抑制[干渉]について、普段私が生徒に対して行っている説明を掲載してみたい。

“distract”の“dis”は「向こうに引っ張って、バラバラにする」イメージ、“tract”は「トラクター」と一緒に、「引っ張る、引き離す」ですね。したがって、“distract”は「気持ちを向こうに引き離す」つまり、「気を散らす」という意味になります。“distract”は“distract”に“ion”をつけて名詞になっています。だから、「気を散らすこと、気晴らし」です。一方、“destroy”は“de”が「分けて、下に」を表す接頭辞で、“stroy = structure”が「建物・建てる」を表します。したがって“destroy”は「建物を下に引っ張って、取り壊す」という意味になりますね。さらに言えば、distractとdestructionの発音の違い(a=æ, u=ʌ)からも両者の違いが分かります。

次に逆向抑制[干渉]について、“be indifferent to～”を例に説明しよう。こちらは、生徒の理解力に応じた、①感覚的な説明と、②より「正確」な説明の2つを挙げてみたい。

①感覚的な説明

洋服を買った後で、「また同じようなものばかり買って！」って言われたことはありませんか。確かに人の好みというものはあるから、他人から見たら、「同じよう」に見えるかもしれないけれども、「私は違うものを買ったんだ！」と思いませんか。そうです。「関心がない」人は「違う」“different”ことがわから「ない」“in”のです！

②より「正確」な説明

“different”の“dif”は発声の都合上、“dis”（分ける→向こうに）が変化したものです。“fer”が「運ぶ」という意味です。ですから、

“different”は「向こうに運ぶ」という意味がもとになっています。ですから、“be indifferent to～”は「向こうに気持ちを運ばない’。“in”（否定の接頭辞）、つまり「～に無関心である」という意味になります。

このような説明を随時用いることで、ただ丸暗記するのではなく、語彙の深い理解が可能となる場合がある。なにより、「なるほど！」と生徒に気付かせることで、勉強に対していやいややられているのではなく、自ら積極的に知ってこう、理解してこうという姿勢を育むことができる。英和辞典の大部分（中辞典以上）にこうした情報は載っているが、単語帳には必ずしも十分には載っておらず知らない生徒も多いので、情報過多にならないよう慎重な配慮をした上で、少しずつ、しかし多少の時間を費やして指導するべきだろう。わずかなきっかけで知識が統合され、丸暗記しようとするより、語彙力の上昇が見られる例が多々ある。“The shortest route can be the longest, and a long route may be the fastest.”（せいてはことを仕損じる、急がば回れ）である。

終わりに

受験指導では、文法、構文の習得などに重点が置かれる一方、語彙の習得に関しては、どうしても生徒の自主的な努力に任せることが多いのではないだろうか。しかし、生徒の側からすると、辞書や単語帳で単語を調べて暗記するプロセスが、英語学習の大半の時間を占めているのが実態であろう。生徒の学力や学習方法が多様であることから、特定の語彙学習法を画一的に導入するのは難しい。しかし、接頭辞等の知識をはじめ、上に述べたようなアドヴァイスをはじめとするあらゆる手段を適宜織り交ぜて、生徒の語彙習得への意欲向上と、記憶の妨げとなっている問題の解決を図る試みを持続的に続けることが大切である。また、はじめは記憶がなかなかうまくいかない生徒の場合も、反復練習を繰り返しているうちに記憶の容量と効率が急速に上昇するケースがきわめて多いから、不断のサポートと励ましを心がけたい。



The Japanese Bath (a.k.a. Heaven on Earth)

Todd Jay Leonard, Professor, Fukuoka University of Education

There are few things in life as satisfying and luxurious as a traditional Japanese bath. Over the millennia, Japan and its people have truly perfected bath-taking—elevating a mundane process of daily hygiene into a veritable art form, one that is steeped in ritual and, in my opinion, could be regarded as a precious and treasured cultural asset of Japan.

Many first-time visitors to Japan are a tad apprehensive about two aspects of taking a Japanese bath: 1) entering bath water that has been used by someone else; and 2) bathing with strangers in communal or public baths.

Admittedly, on my first visit to Japan as a 17-year-old high school exchange student I, too, was not very keen about baring it all with a group of strangers...or getting in a tub after several people had already used it. However, after just one time, I was hooked. All apprehensions were cast aside, and I am now a big fan of all types of traditional Japanese baths: the home bath, communal or public bath, and traditional *onsen*.

In fact, today I tend to be much more apprehensive about getting into an American-style “hot tub” than I am about entering a Japanese bath because before entering the actual Japanese bathtub, proper etiquette obliges bathers to first thoroughly soap, scrub, and rinse off their bodies before setting foot into the hot water. Most people enter a “hot tub” without bathing, knowing that so much chlorine is in the water that, like a pool, a shower afterward is needed.

I find it quite interesting how from childhood, Japanese children are exposed to traditional Japanese baths and learn early on the technique needed to wash properly their little bodies. In addition, I love the custom in Japanese families where children’s bath time is nearly always done with Dad. From the time the children are babies, Dad is the one who usually bathes with the children giving Mom a short break after dinner. Most every adult Japanese person can pull out a photo with Dad in the bathtub, usually as a small baby, taken by Mom.



Quite numerous in the old days, mixed public baths (that allowed both men and women to bathe together) are not so common today. The Christian missionaries who came to Japan in the late 1800s tried very hard to nix this custom, and eventually were largely successful except for traditional *onsen* with *rotenburo* that feature several outdoor baths. A number of these allow both men and women to bathe together still today.

At first, I was quite self-conscious about bathing in mixed company, but this anxiety subsided once I was fully immersed into the soothing, hot water. In reality, people are quite friendly and welcoming in such baths. I suppose because everyone there loves taking traditional-style baths so much that under circumstances that should seem awkward or embarrassing (*i.e.* men and women bathing together in the nude) are actually quite normal and natural. The “nudity” aspect is not the focus at all—the medicinal, mineral rich water is why people are there, and generally this is the main topic of conversation in such instances.

Really self- or body-conscious people may find a Japanese public bathing experience to be much too torturous to bear; but in fact, it is such a common and natural part of Japanese people’s lives, that no one pays other bathers much attention. Perhaps by sitting low to the ground, and in front of a small mirror, psychologically it gives one a sense of privacy. After all, it would be rude to stare, and besides, everyone is in their birthday suits, so what’s the big deal?

When friends visit from home, I often recommend they first try out the home bath. For the shy and uninitiated, perhaps the privacy of a home bath is more appealing to try first before bathing in a communal bath with strangers. Next, I like to take them to my favorite traditional-style *onsen* in the mountains that offers a variety of baths, including a communal outdoor bath that is mixed. This particular bathhouse is actually a traditional Japanese inn. It is located so far away from civilization that it has no electricity. Cell phones are unable to pick up any signal. For travelers wanting to truly get away from it all, this is the place to go for total relaxation away from the clutches of modern technology. At night, oil lanterns are lit all around the inn and the surrounding grounds, giving it a magical and surreal appearance.

Generally, Japanese people have very beautiful skin, often resembling silk. I believe this has a lot to do with the bath ritual they perform daily. I am always amazed at how thorough people are, even children, when bathing at a public bath. Children scrub and scrub their little bodies with such determination, learning by observing and mimicking their parents. These rough washcloths exfoliate, sloughing off dead skin cells from the body. This keeps the skin smooth and silky. Since many Westerners opt for a morning shower, forgoing the use of any type of washcloth, they are only washing off the dirt and grime for the most part, and not all of the dead skin cells.

Old habits are hard to break, I suppose. Even though I have lived in Japan for over twenty-years, I still insist upon a morning shower largely because this is a part of my American upbringing and culture. In addition, though, I relish taking a luxurious and relaxing Japanese bath before bed—the best of both worlds!

センター試験の 分析と対応



渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校

① 2011年度「筆記試験」の分析と対応

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験〔筆記〕でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がされた。設問形式が若干変わった箇所があるが、全体的な傾向は変わっていない。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く、昨年よりやや易化し、平均点は昨年度より5点弱高くなり、122.78点となった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、
第1問A: 単語をきちんとした音で発話する能力
第1問B: 単語を正しいアクセントで発話する能力
第2問B: 対話がスムーズに流れるよう、適切な発話を考える能力
第3問A: 初出の表現でも、全体の流れから意味を類推する能力
第3問B: 発言の内容を要約する能力
が例年通り求められている。

また読解力をみる問題では、
第3問C: パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力
第4問: グラフや表、説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力
第5問: 父娘2人の発言を読み、イラストや英文を正確に把握する能力
第6問: エッセイの流れを正確に追い、論の展開をつかみながら長文を読み取る能力
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上での確かな情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

2. 具体的内容分析

<第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A 発音 (8点: 解答数4)

基本的な単語の発音(母音と子音)を問う問題。アクセントのない母音の発音も問われた(問2)。やや難易度の高い語(monarch, ostrich〔問4〕)も出題された。

B アクセント (6点: 解答数3)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が1つずつ出題されたが、見出し語がなくなったため、個々の語の正確なアクセントの位置がより問われるようになった。ここでも、やや難しい語(supreme〔問1〕、epidemic〔問3〕)の出題があった。

<第2問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A 語彙、語法、文法 (20点: 解答数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。動詞の用法を問う問題(I wish I had participated〔問3〕)は頻出である。語法やコミュニケーションの力を併せて要求する問題(put on weight〔問2〕、in the hope of ~ing〔問5〕、be supposed to〔問8〕)も相変わらず多い。基本的な動詞の区別(raiseとrise〔問1〕)、形式目的語(find it ~ to …〔問7〕)、不可算名詞や同義語等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

B 対話文完成 (9点: 解答数3)

対話文を完成させる問題。発話数はすべて4つになった。相手に同意しているかの状況をしっかりとつかみ(I know.〔問1せりふ〕)、文脈の流れ

を捉え (then [問2 選択肢])、会話特有の表現 (get over ~、go on with ~ [問2 選択肢]) に慣れておくことが大切である。

C 語句整序 (12点：解答数6)

各文の中に含まれる語彙・語法・熟語 (thank you for + (動) 名詞 [問1]、call + 人 + in ~ [問2]、help + ~ + 動詞の原形 [問3]) を使い、意味の通る文を作る問題。関係代名詞の省略 ([問1])、仮定の条件が言外に含まれる際の would ([問3]) といった文法の知識も必要とされる。

<第3問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A 語やフレーズの意味類推 (10点：解答数2)

下線部の単語や表現の意味を全体から類推する問題。対話やパラグラフの中でどのように状況が推移しているのかを正確に読み取り、ヒントとなる語(句)をもとに想像力を働かせる。

B 発言の意図の要約 (18点：解答数3)

3人の発言の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の単語を使って言い換えている (like being a different person on stage を like to act out what you don't usually experience in real life で [空欄29]、your personality is similar to that of the character を the role fits your true personality で [空欄31]) ことが多いので、発言の主旨を理解し、まとめる柔軟な読解力が必要とされる。

C 適文補充 (18点：解答数3)

指定された空欄に選択肢で与えられた適切な文や文の一部を補う問題。選択肢の文中、及び挿入箇所前後の代名詞や指示語、接続する語(句)に注意を払い、論が正しく展開するよう当てはめてゆく。[空欄33] では、前文の The preparation of batik requires great skill. と次の文の Therefore, のつながり方、[空欄34] では、それ以前の論の展開と、該当文選択肢の not the only と次の文の unique の使われ方の流れに注意を払う。

<第4問>

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

A グラフ読み取り問題 (18点：解答数3)

本文とグラフを参考に、展開される論からの的確な情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、設問では情報の内容を適切な表現で行う。本文中の reflect objectively

on their own values が think about one's own values and those of others [問3 選択肢] と対応していることを見抜く読解力も必要とされる。

B 広告読み取り問題 (15点：解答数3)

広告から適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所を的確につかむことが大切。

<第5問> (30点：解答数5)

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

2人の発言をもとに、事実と感想の違いをとらえる。ここでも、本文の have plenty of space が選択肢では have enough room to relax [問1] に、本文の people turned and looked at us が選択肢では father drew the attention of other passengers [問2] に言い換えられている。父娘それぞれの発言から出来事を時間通りに追っていく丁寧さが求められる。

<第6問> (36点：解答数6)

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

論説文を読んで質問に答える問題。段落構成を問う問題が段落の要旨を順に並べ替える問題になった(問6)が、論全体の意図をまとめる問題(問5)は例年通り出されている。各パラグラフのポイントをつかみ、話がどのように展開し、主題は何か、という広くかつ深い読み方ができる力が求められる。また、正解の選択肢は本文で使われていない単語(表現)で求められる場合も多いので、基本的な類義語を理解する力も必要である。

3. 昨年度から変化のあった点

- ① 総語数が約1割増加した。
- ② 第1問Aで、アクセントのない母音の発音を問う出題がなされた。
- ③ 第1問Bの見出し語がなくなった。
- ④ 第2問Aで対話形式が3問から1問に減った。
- ⑤ 第2問Cで、並べ替える文の前の説明文がなくなった。
- ⑥ 第4問Bで状況を設定する文がなかった。
- ⑦ 第6問(問2)で、本文で述べられていない内容を選ぶ問題が出題された。

③第6問(問6)で、段落構成を問う問題が、段落の要旨を順に並べ替える問題になった。

4. 新傾向が見られる点

- ①第1問Aで、アクセントのない母音の発音を問う出題がなされた。
- ②第6問で、本文で述べられていない内容を選ぶ問題が出題された。
- ③第6問で、段落構成を問う問題が、段落の要旨を順に並べ替える問題になった。

5. 日頃の学習で大切なこと

①多面的に語彙を増やす

ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、対義語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。また、カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

②語と語のつながり(語法、Collocation)に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、自分が理解しや

すい組み合わせなら、より効率的に覚えられる。

③英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文(主語と述語の区切れや省略等)に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をする。単語一つ一つの音に注意を払い、そして文全体の内容を理解しながら読み進める。何回も繰り返して読み込んでゆけば、なによりも英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

④わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

すべての単語の意味がわからなくても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出会うとすぐに辞書で意味を調べる読み方をしていると類推力、想像力が身につかなくなってしまう。

⑤論理展開を重視した読解力を養う

どんな読みものでも、接続語やキーワードを手掛かりに論の展開がどのようになっているかを考え、最後まで通して読む。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。

⑥多読を心がける

80分で4,000語程度の分量の英語を読みこなすには、ふだんから500~1,000語の文章をある程度のスピードで読むことが大切である。授業では精読を中心に行っているが、時には様々な分野の、比較的易しい文章に触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

Ⅱ 2011年度「リスニング試験」の分析と対応

1. 全体的な傾向

過去5年間ほぼ同じ出題形式である。解答数、配点いずれも昨年度と同じである。読まれる総語数(1,100語強)は昨年度より1割弱増加した。読み上げ速度は昨年度より若干上がったが、自然な感じである。問題音声も設問ごとに2回流された。比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題だが、音声面でのリダクションもあり、平均点は昨年度よりやや下がった。(今年度25.17点、昨年度29.39点、一昨年度24.03点)。内容はいず

れも生徒の日常生活や学校生活の中で起きうる身近な話題がテーマになっている。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル(12点:解答数6)

●男女2人の対話を聞き、イラスト、数字、語句を選択する

●各対話の総語数:30~40語

イラストや図、数字を見ながら英語を聞く。最初のせりふで状況をだまかに把握し、求められる情報を的確に探し出す。対話に出てくる語(句)

や数字がすべて答えになるとは限らず、簡単な計算をする設問もある。キーワードは2番目～4番目のせりふに出てくるが、文脈の中でtwelve times for the cost of ten〔問4〕の意味がとれたり（下記下線部参照）、have a tooth pulledは選択肢のSee the dentistと同じことを意味する〔問6〕ことを見抜く能力も問われる。

問4

Man : Oh! Don't you use discount tickets?

Woman : But the bus fare is just a dollar fifty.

Man : Yeah, but with a pack of discount tickets, you can ride twelve times for the cost of ten.

Woman : Really? I'll get one now.

<第2問>対話応答補充（14点：解答数7）

●対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

●各対話の語数：約20～約30語

相手の述べたことへの自然な反応を考える。昨年度同様、本年度も応答の前のせりふはすべて平叙文であった。最初の2つのせりふから会話の場面や状況を想像したい。また、Guess what?〔問11〕、You look awful.やMy nose is running,〔問12〕等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

<第3問A>対話内容Q&A（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

●各対話の総語数：50語前後

問14

Woman : Is there anything I can do to help with dinner?

Man : Well, I already set the table.

Woman : Then, how about if I pour the iced tea?

Man : Not just yet. The bread needs to be cut, and the wine's not open.

Woman : OK. Where's the cutting board?

質問 : What will the woman do first?

選択肢

- ① Open the wine.
- ② Pour the tea.
- ③ Set the table
- ④ Slice the bread. (正解)

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。せりふの数は5か6のいずれかになった（昨年度は4、6、7）。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。せりふのThe bread needs to be cut,とWhere's the cutting board?から選択肢のSlice the bread.〔問14〕へと導けたり、せりふのin a rush〔問15〕といったフレーズ、save, delete, junk〔問16〕等の語彙を知っていて聞き取れるかがポイントとなる。

<第3問B>対話ビジュアル（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

●対話の総語数：約150語

聞き得た情報を順に図表に当てはめてゆく。選択肢の数字がそのまま読まれるとは限らないし（8.8%がabout 9%）、解答欄④にalthough it's (=English is) more common than people who call themselves American, it's not even in the top threeでEnglishが入る場所が決まらないとAfrican-Americanが入られないように、情報が揃いきらないと答えられない場合もある。また、情報は上から順に出てくるとは限らないので注意が必要。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A（6点：解答数3）

●Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●各せりふの総語数：100語前後

問20

Moving to a new home with your pet can be difficult. Cats are very sensitive animals, and moving is quite an upsetting experience for them. When you arrive at your new home, it may be a good idea to put your cat in a quiet room, if possible. Leave him in peace with his old bed, his litter box, and some food until everything calms down. After that, let him come out and join you only if he wants to. He should also stay indoors until he becomes familiar with his new home and environment.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、求められる情報の所在を明らかにする。選択肢では答えとなる語を別の表現で言い換えたり、まとめることがある（前ページ下線部を Protect your cat from the stress of moving. に）場合も多いので、要旨をまとめる力も求められる。

<第4問B> 説明文内容 Q&A (6点：解答数3)

●説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●説明文の語数：200語強

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況想定ができるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。要求された情報を正確に取り出す力が要求されるが、ここでも選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられている (they (=nursery rhymes) are often passed down orally from one generation to another in the homeが They are often introduced to children in the family. に [問23]) ことがある。話の流れが変わったり、固有名詞が出てきたりするので、メモを取りながら質問されるポイントの箇所を絞って聞くことも大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約45秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。

3. 対応のポイント

①状況・場面を想像する力を育成する

事前に問題指示文、選択肢、イラスト、状況説明文等に目を通し、内容を推測しておく。聞く前に精神的なプレッシャーをできるだけ少なくすることも正しい聞き取りへの第一歩である。

②英語特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、a dollar fifty [問4]、the least accessible [問21]、be supposed to [問22] (筆記第2問問8にも出題) のようなフレーズは聞けるだけでなく、意味が自然にわかる程度まで聞き慣れておくようにしておきたい。

③対話の流れや方向性をつかむ

最後の発言に対する相手の応答を考える場合(第2問)、答えとなる情報はそのまま与えられて

いる訳ではない。それまでの話の流れを理解し、これからどのような展開になるのかを推測する能力が求められる。その際、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。最後まで慎重に状況を確認したい。

④言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は要求される。流れてくる英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、ある表現を別の形で言い換えている場合も多くある。正答のカギとなる情報をきちんと整理する能力も求められる。

⑤全部完璧に聞き取れなくてもよしとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解する必要がないのはリスニングにおいても当てはまる。リスニングでは聞き取れなかった箇所を悩み込んでしまうと次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「残りからさかのぼって推測すればいい」と思うくらいの余裕が欲しい。

4. 日頃の学習で大切なこと

①英語の音を聞くことを習慣にする

「継続は力なり」とよく言われるように1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。センター試験の英語は自然で標準的なものである。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておき、英語を聞く抵抗感をできるだけ少なくしたい。

②聞いた音を真似して声に出す

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。そのためには、repeating、英語での Qs & As、dictation 等の基本練習を日頃から行っておきたい。

③語彙を増やし、自分で表現する練習をする

提供される情報の内容を理解するためには基本的な語彙力が必要である。知らない単語は聞き取ることができないし、あやふやな理解では誤った情報を受け取ってしまう可能性がある。また、内容を整理して別の表現で言い換える練習も積んでおきたい。



CROWN クラウン総合英語 第2版

採択No.1教科書CROWNの代表著者が編集した
最強の総合英文法参考書!

霜崎 實 [編著] 1,523円

A5判/オールカラー・648頁(本文608頁,解答40頁)



- 基礎から発展まで重要事項を網羅。
- 理解をさらに深める豊富なコラムを収録。
- 導入編・基本編・発展編の学習しやすい3段階構成。
- 重要事項が見つけやすい機能的な紙面デザイン。
- 生き生きとした例文, 要点を押さえた解説。
- 大学受験に, TOEIC・英検対策に最適。

CROWN PLUS English Series

中高一貫教育にも対応した中高生向け英語テキスト



Revised Edition

CROWN PLUS Level 3 主対象 高1・高2

大学入試を見据えた読解力養成テキストの改訂版

高校英語で求められる論理的読解力の養成を目的としています。

文法=高1~高3相当 英単語=3,000語レベル

B5判/2色刷・224頁 1,000円

[付属教材] WORKBOOK 650円/リスニングCD1,500円

[指導書] 3,780円 <指導用CD・CD-ROM付>



CROWN PLUS Level 4 主対象 高2・高3

Level 3 の上位に位置付けられるテキスト

大学入試で求められる英語力の完成を目的としています。

文法=高3以上 英単語=4,500語レベル

B5判/2色刷・184頁 1,000円

[付属教材] WORKBOOK 550円/リスニングCD1,500円

[指導書] 3,780円 <指導用CD・CD-ROM付>

Level 1 主対象 中1~中3 1,000円

発展的言語材料、多様な読解教材を収録した検定教科書補完テキスト。

Level 2 主対象 中3~高1 1,000円

高校英語への橋渡しのための表現と読解のテキスト

*表示価格は、学校納入価格(税込)

三省堂高校英語教育 2011年 夏号

- 発行 ————— 2011年6月20日 定価100円(本体95円)
- 編集・発行人 ——— 北口克彦
- 発行所 ————— 株式会社三省堂 ●ホームページ <http://tb.sanseido.co.jp/english/>
〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14
電話(03)3230-9421(編集) 振替 00160-5-54300
- イラスト ————— 只見 優佳(ただみ ゆか)
- 表紙デザイン ——— 株式会社キャデック
- 印刷 ————— 三省堂印刷株式会社
〒192-0032 東京都八王子市石川町2951-9 電話(0426)45-6111(代)

学習機能を充実させた最強のツール 高校生用英語辞典 勢ぞろい!

グランドセンチュリー 英和辞典 第3版 CD付き

木原研三 [監修]
宮井捷二・
P.E.ダベンポート [編]
B6変型判 1,960頁
3,129円

入試に強く、入門から使える中級～上級向け学習英和の最新版。大改訂により収録項目数を飛躍的に増強し、総項目数は6万8千に。2段階の入試頻度表示など、万全の大学入試対策。巻末には1万4千項目収録の和英付き。



グランドセンチュリー 和英辞典 第3版

小西友七 [監修]
岸野英治 [編]
B6変型判 1,760頁
3,045円

入試に強い、入門から使える最強の学習和英! 日常語を強化し、総収録項目数4万3千。英作文に役立つ「ライティングのヒント」欄を新設。生活を表現する言葉を中心に用例を大幅に入れ替え。最新の語法研究を取り入れた、定評ある語法解説。



語法・受験に強い! 現代英語に強い! WISDOM

しかも、進化するウェブ辞書が無料で使える!

ウェブ版英和は全見出し語にネイティブ発音による音声付き。また、英和・和英ともに、教材作成・英作文に便利な新ツール「用例コーパス」を公開中。詳しくは、<http://www.dual-d.net/>へ。

ウィズダム英和辞典 第2版 ウィズダム和英辞典

井上永幸・赤野一郎 [編] 小西友七 [編修主幹]
[並装] 3,465円 [革装] 5,250円 [並装] 3,465円 [革装] 5,460円



基礎からマスター [読む・聞く・話す]



単語力アップのための
工夫がいっぱい

ビーコン英和辞典

第2版
B6変型 2,835円



持ち運びに便利な
ハンディサイズ

小型版

ビーコン英和辞典

第2版 小型版
A6変型判 2,310円